

勢陽五鈴遺響

飯高郡

二十九

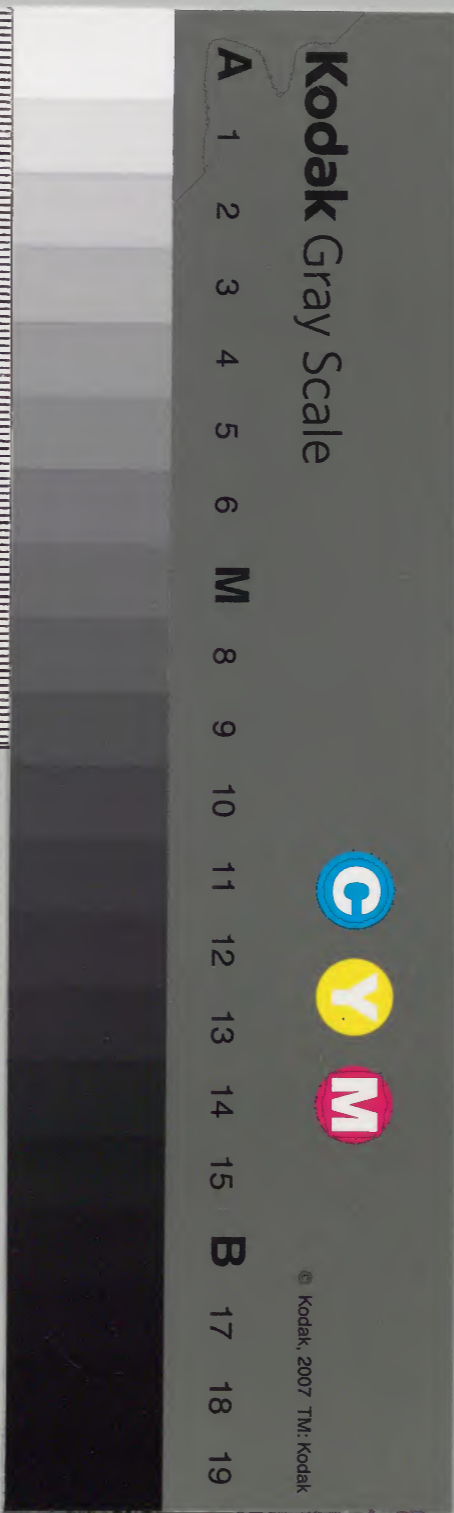
和書門			
二九〇一九			
四〇	冊	架	函
冊	架	函	號

庫文閣内			
一七二函	二九〇一九	和書類	
二四	冊	架	函

閣31

内閣文庫	
番號	和 29019
冊數	40 ( 29 )
函號	172 310

内二〇七二五號





香

初世聖德太子... 丁巳計胤...

聖德太子... 丁巳計胤...

聖德太子... 丁巳計胤...

聖德太子... 丁巳計胤...

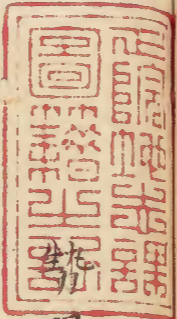
聖德太子... 丁巳計胤...

聖德太子... 丁巳計胤...

聖德太子... 丁巳計胤...

天





陽五鈴遺郷飯高郡卷之八

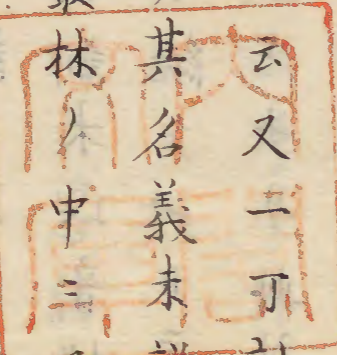
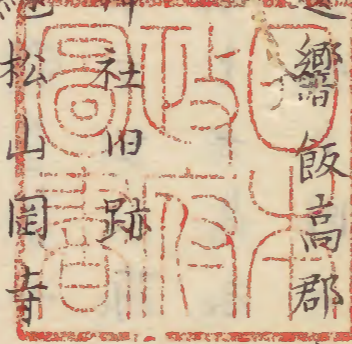
加世智神社跡一丁半計乾位檜二株アリ  
是松坂継松山園奇ノ旧地ナリト云又一丁計

老松一株アリ賀信ノ松ト名ク其名義未詳  
式内加世智神社 同処ノ西位叢林ノ中ニア

一本校正ニ從ヒテ石津加世智神社トシテ  
石津ニ在トイヘト今詳ニスル片ハ石津大口

隣比ノ邑ニメ甚邇シセナカ浦又セク口山又  
方俗シヤクシト云老松叢林ノ塚田間ニアリ

是加比智社ニノ社字ナシトイヘリ真蹟トス  
ヘシ郷津村久尔郡社ヨリ北去二丁祭神風木



丙一〇七二五號



津別之忍男神 度會延經神名帳考證云加世  
智神社岐神猿田彦命ト同神古事記云於投棄  
御杖所成神名衝立船戸神倭名鈔云横首杖加  
世都惠盖取義有縱横智舅也古事記云久久能  
智神祢土地之壽在波瀨村社此乎 度會正身  
神名帳再考證云加世智神社古事記ニ風木津  
別之忍男神ト云アリ訓風云加邪訓木以音按  
スルニカセト云ヘキヲ下ニ辞ヲ続ケニトテ  
第四位ノ體ヲ第一位ノ用ニ轉スルナリ此神  
名皆假字カセハ苜縮ナリセハ早縮ノセニ志  
ねノ切セトナリ志ねハ水根ニテウルニ子才  
シ子ノ志ねト同シ又カリテアヲ畧メセト濁

ルナリ木津ハ保ナリ別ニ風木津ヨリ別ル  
縮男ノ神ト云義ナリ此神社ハ苜縮保ノ神ニ  
メ保食神ニ同之此智ノ字ノ上ニトノ畧アレ  
氏濁ナキハ重濁ヲ避ルナリ社地未考今詳ニ  
スルニ延經考證加世智神社ノ名義ニ拠テ加  
世ハ和名抄ヲ引徵ノ加世都惠ト同ク畧語智  
ハ舅ニメ彦舅ノ例ニ等ク杖ノ名ニ由テ古事  
記衝立船戸神ヲ所指ニメ即岐ノ神猿田彦大  
神ト相同シ又久久能智神ハ土地ノ久遠ノ壽  
ヲ云其社地ハ波瀨村ニ在ルヘシト解注セリ  
正身再考證ハ加世智神社ノ名ニ拠テ古事記  
ニ所出風木津別之忍男神ノ名ヲ解ノ風ハ苜



稲木津ハ保<sup>鳥</sup>ニ同シ別ハ苜稲保ヨリ別ル稲男  
命ト云義ニノ保食神ト同ク加世毛智ノ訓ヲ  
畧メ加世智神社ト号スルナリ社區ハ未詳ト  
云注ナリ案スルニ前考證和名鈔ニ横首杖ヲ  
加世都恵ト訓スルヨリ扱ヲ鑿メ杖ヲ用ルハ  
岐衢ニ從フ故ニ岐神ヲ祭ルト云ハ迂ニノ解  
ニ難シ後考證ニ祭神ハ風木津別之忍男神ニ  
ノ加世毛智ノ畧ヨリ神社ヲ名クト云フハ甚  
迹ニ此ニ從フヘシ前考證社地波瀬村ニ在ス  
ナルヘシト云其徵ヲ得ス竟然近神名帳考正  
云背奈浦石津社此<sup>ノ</sup>ト云背奈浦未其地ヲ不  
知勢陽雜記拾遺此ニ從<sup>ニ</sup>背奈浦ニアリトス

式社案内記ニ大口村ニ在ス俗ユツ社ト呼フ  
祭神風木津別之忍男神ナルヘシト云此後考  
證ニ從ヘリ勢陽俚諺風木津分忍男君ニ作ル  
ハ非ナリ然レ本郡大口村ニ在ス処ト云片  
ハ海船湊集ノ地ニノ祭神衝立船戸神及猿田  
彦命等ナルヘシ其船工賈人ノ崇敬スル処ナ  
リ方俗稱スエツ社ノ名ハ本邑ノ西位ニ小キ  
叢林アリ其地ノ小字ヲ惠津ト云未詳姑ク前  
説ニ從ヒテ此ニ定ムト云ハ尾猶後誓ヲ俟モ  
ノナリ

郷津 大口ノ南ニアリ正税二百七石今百八十  
九石二斗二升八合新田二十九石八斗四升三



合紀州松坂領ナリ旧本或ハ江津ト録ス  
式内久尔都神社 同処ニアリ生土神ナリ奈  
神乙加豆知命 村老云本社ハ旧ト大口浦紀  
州御藏前東南ニヲニヤタト云田間ニ叢林ア  
リ社宇ナシ里俗明神ト称ス又並ヒテ半丁計  
ニ森アリ是ハ大口領ナリ今ハ江津村中ノ社  
ニ迁スト云然レハ今ノ地ハ後ニ移造スルト  
ト口ナリ 度會延經神名帳考證云久尔都神  
社古事記云御真津日子訶惠志泥命娶尾張連  
之祖奥津余曾之妹余曾多本毗賣命生御子天  
押帶日子命伊勢飯高君壹志君之祖也続日本  
記云天平十四年四月甲申伊勢国飯高郡采女

正八位下飯高君笠目之親族懸造等皆賜飯高  
君姓宝龜八年五月戊寅典侍從三位飯高宿禰  
諸高薨伊勢国飯高郡人也今云郷津社此乎  
度會正身神名帳再考證云久尔都神社社号ハ  
国造ノ下畧大神社ノ下ニ引如ク古事記云壹  
志君飯高君ノ始祖天押帶日子命ハ大社ニ祀  
リ此郡ヲ創造リタル祖ハ此ニ祀レルナリ  
今詳ニスルニ延經考證久尔都神社ノ名義ニ  
拠テ古事記ヲ引徵ノ御真津日子訶惠志泥命  
ハ即孝照天皇ナリ尾張連祖奥津余曾ノ娣余  
曾多本毘賣命ヲ娶テ天押帶日子命ヲ生ス此  
命伊勢飯高君壹志君之祖ナリ又続日本紀天



平十四年四月飯高郡采女正八位下飯高君笠  
目ノ親屬ノ懸造等ニ各飯高君姓ヲ賜フ又宝  
龜八年五月條ニ典侍飯高宿禰諸高薨ス此ニ  
飯高君ヲ改テ宿禰ト云皆本郡飯高ノ人ナリ  
今郷津村ニ所在ノ社ナルヘシト解セリ正身  
再考證云久尔都神社ノ号ハ国造リノ下久理  
ノ二字ヲ畧ス処ニメ前深長村ノ大神社ニ天  
押帶日子命ヲ祀リ此社ハ本郡ヲ創造スル処  
ノ祖神ヲ祀レル処ナリト云注ナリ憶フニ久  
尔都ハ国津ノ假字ニ同ク其国造ノ祖ヲ祀リ  
タルハ必セリ天押帶日子命ハ命ハ既ニ大神  
社ニ奉祀スルニ拠シハ同郡ニ二社ニ祀ルヘ

キ謂ナシ後考證ニ此郡ヲ創造スル処ノ祖ヲ  
此ニ祀シリト云ハ至當ナリ然レハ前考證及  
勢陽雜記拾遺式社案内記等各天押帶日子命  
トスハ非ナリ古屋草紙土御祖神トス是国津  
神社ノ名ニ拠テ牽強ナリ論ニ不足猶本邑郷  
津或ハ江津ト字ヲ填トイヘ氏旧名ハ久尔都  
ニノ後ニ国津ヲ假リ音読ニコクツト謂ケル  
ヲ後ニ郷津ト轉訛セルナルヘシ各神社ノ名  
ニ拠リ神社ハ国造祖ヲ祭リヲ拠テ名トス処  
ナリ天押帶日子ハ大神社ニ祀リ此ハ倭姫命  
世紀云活目入彦五十狹第天皇二十二年癸丑  
冬十二月廿八日迁飯野高宮奉齊四箇年子時



飯高懸造祖乙加豆知命汝国名阿門給白久意  
須比飯高国止白而進神田並神戸飯高懸造祖  
ニノ此郡ヲ創タルハ此神ナルヘシ此餘所見  
ナシ然ル片ハ此久尔都神社ニ乙加豆知命ヲ  
祀シリト云ヘシ然レ片今乙加豆知命ハ本郡  
作滝村ノ神社ニ所祀ニ人其社司飯高君ノ裔  
孫ナリト称ストイハ片各私称ニシテ其真ヲ  
得難シ松坂府雨竜天王社ノ社司モ飯高笠因  
ノ裔ト称ス作滝社ニ例ヘルニ同シ孰シ乙加  
豆知命ハ懸造遠祖ニ人式内ノ神社ニ奉祀ス  
ヘキ処ナリ作滝ハ式外ニ人今内宮ニ属スト  
云ヘ片上世ノ御厨ノ地ニ人強テ乙加豆知命

ノ本祠片定ノ難シ然レハ此ニ久尔都神ノ社  
ノ名ト郷津ノ旧名ト相應シ国津神ト名ク片  
ハ懸造ノ遠祖乙加豆知命ヲ奉祀スルニ必セ  
リト云ヘシ

高野屋 郷津ノ南ニアリ正税四百二十一石今  
四百二十一石六斗八升七合新田六百三石一  
斗四升一合 今替スルニ古昔帝都ヨリ大神  
宮及齊宮ニイタル街道ハ一志駅ヨリノ飯高  
駅ニ到リ岸江朝田立利清水櫛田ヲ經テ齊宮  
ニ入り其餘ハ度會郡ニイタル中世ハ又今ノ  
帝京ヨリハ近江州ヲ經テ鈴鹿郡ニイタリ安  
濃駅ヨリ垂水藤渚三渡ヲ涉テ東海瀕ヲ過テ



飯高駅即今ノ松ヶ島旧名保曾久美後ニ細頸  
ト称ス今町ヤ或高町屋ト云ハ其駅ノ旧名ノ  
遺ルナルハシ大口郷津等ヲ經東岸江ニ至リ  
朝田清水櫛田齊宮ニ至リ度會郡ニ入テ大神  
宮ニ詣スハ相同シ老農松本所謂ハ飯高駅ハ  
本郡石津ヲ至當トスハ恐ク非ナリ詳ニ首篇  
本州街道今古論ニ槩セリ然ルニ此松島ヨリ  
米牙ノ地ニ町平尾北町屋高町屋等町坊ノ名  
ヲ称スルハ細頸ノ古駅ノ餘戸ノ意ニシテ後  
世ニ至リ其名ヲ失サルナルヘシ然サレハ村  
落田間ニメ町ノ名ヲ冒スヘキナシ併セ替フ  
ハシ

荒木 大口ノ西ニアリ正税百三十六石今百三  
十六石二斗一升八合新田二石一斗七升一合  
紀州松坂領ナリ  
石津 荒木ノ坤位ニアリ正税二百七十三石今  
百九十石二斗九升四合新田二石九升八合  
紀州松坂領ナリ 古屋草紙云石津村昔ノ飯  
高駅屋ナリ宝龜七年依勅大鹿瀬寺ヲ此処ニ  
迁ス今詮スルニ飯高駅ハ前号松ヶ島ナリ即  
保曾久美駅ナリ既ニ論セリ其大鹿瀬寺ハ何  
ニ拠ルヤ未知  
鎌田 石津ノ西ニアリ正税七百二十九石今七  
百廿七石一斗四升八合新田三石一升三合紀



州松坂領ナリ

西庄 松坂府ノ北ニアリ正税百二十四石今百  
二十四石ニ斗七升六合新田一石九斗六升四  
合紀州松坂領ナリ旧名藪西庄ト称ス元禄七  
年ヨリ西ノ庄トノミ名ク坂内河今ノ府城ノ  
北大橋ヨリ二町西南ニ水隈ヲ生淵ケ藪ト名  
ク藪林アリ當今ハ耕地ト変ス故藪西庄ト称  
ス坂内河ヲ篠川ト名クモ此謂ナリ又西庄河  
ト称ス  
坂内川 水源ハ本郡坂内白猪ケ嶽ヨリ流出  
辻原大河内ヲ經テ桂瀬立野丹生寺ヨリ岡本  
大豆井村ニイタリ外五曲内五曲ノ間ヲ流テ

藪西庄ニイタリ城府ノ北官道ニ濟ル橋梁長  
二十四間ニ尺幅三間一尺五寸白猪岳ヨリ此  
橋ニイタリ行程四里是ヨリ平尾大口ノ間ニ  
到テ行程三十町餘ニ東海ニ入ル坂内川旧  
名ハ笹川或ハ西ノ庄川ト称ス方俗橋梁ヲ西  
ノ庄橋ト名ク領主ヨリ架ス板橋ナリ

松坂府 本州激奥ノ府ニ東街道及諸道ヨリ  
大神宮ニ詣スルノ官道ニ東海瀨ニ迄ク北  
ハ一志郡ニ接シ西ハ本郡及多氣郡ノ山嶽連  
綿ノ山郷ノ民聚テ山河ノ産物薪炭山果等ヲ  
貨易シ南ハ飯野郡ニ接ノ村民會ノ米穀菜蔬  
ヲ鬻ク東海ノ漁民ハ魚錯ヲ賣來テ售賣シ其



地豪高富民多シ其坊間ハ北ハ坂内川ヲ限リ  
南ハ愛宕山ヲ限リ凡テ南北十九町餘是豎町  
ナリ東西九町餘是横町ナリ民屋二千三百  
餘戸男女八千三百餘口其産貨ハ鎧ヲ鍊鍛メ  
方俗松坂懸ト称ス今亡シ其餘木綿剪茶菟蒨  
著匙ノ類團扇箒等ナリ各土人及四方山民製  
造ノコトニ鬻キ東都等ニ運漕スル多シ旧ト  
此府ハ天正十六年蒲生飛彈守氏郷本郡松ヶ  
島城ヲ此地ニ迁シ經營セシヨリ其民家モ從  
ヘ迁メ今ノ府城ノ坊間トナレリ故ニ蒲生家  
領宰ナル近江州日野ニ比メ日野町ト称スア  
リ勢陽俚諺云足利家ノ時町割ヲ令スト云ハ

非ナリ然ル故ニ上古ノ飯高駅ヲ革テ其街道  
モ迁變リテ今ノ安濃津ヨリ此地ヲ經テ度會  
郡宇治山田ニイタルノ官道ヲ設闢タルナリ  
詳ニ後号次第ノ辨論セリ  
松坂府城 松坂府城惣裁紀州領地本州ノ内  
田丸松坂白子三領内トス 田丸領三百四十  
七村内二百八村度會郡百三十九村多氣郡  
松坂領二百二十五村内百七十六村飯高郡八  
村飯野郡四十一村一志郡 白子領百十八村  
内五十三村菴藝郡六十二村一志郡一村三重  
郡二村川曲郡 惣計在郷百姓家数大小三萬  
三千九十八軒人数十五万八千八百二十九人



町中人数八千九百九十七人三千九百六十一人  
男四千二百三十六人女牛馬八千八百五十  
四疋牛四千四百八十四疋馬元禄十三年辰二  
月改定ス処ナリ

松坂城府 城代一人勢州奉行二人内一人舟  
奉行兼帯内一人町奉行兩役ト称ス 目附一  
人代官一人郡奉行一人先年勢州奉行ノ外町  
奉行舟奉行二人アリ今兼役ナリ近年郡奉行  
ヲ停ム代官ヨリ兼役ナリ此餘大御番組結衆  
アリ 田丸白子二領ハ物頭代官十人目附勤  
番ナリ郡奉行ハ停ム 其府治ノ起原ヲ詳ニ  
スルニ旧ハ四百五森ト称ノ叢林ノ地ニシテ

城壘モナキ処ナルニ元龜元年多氣国司北畠  
家臣潮田長助者始テ城郭ヲ築キ住ス其傳ハ  
後ニ載タリ天正十二年豊臣氏ノ命ヲ奉シテ  
蒲生飛彈守氏郷近江州日野ヨリ本郡松ヶ島  
細頸城ニ移リ住シ五年ヲ經テ同十六年細頸  
城ヲ廢ノ此地ニ迂リ再經營メ松坂ト称ス相  
州小田原北條氏康征伐ノ戦功ニ拠テ同十八  
年六十万石ヲ賜テ奥州會津若松城ニ移轉ス  
此細頸城ヲ移スノ片近郡ノ神社梵閣石瓦材  
ヲ襲取リ及其叢林ノ材用ニナルヘキ樹木ヲ  
掠伐テ結構ス是嚴重ナル始ナリ其後天正十  
九年服部采女正一忠ニノ給ノ文禄三年ニ至



リ四箇年居ス是豊臣関白秀次ノ命ニ拠テ南  
伊勢三万五千石ヲ附属シ家臣石黒毛右衛門  
尉城代ト任シ此松坂府城ノ廳政ヲ掌シム一  
忠ハ聚樂城ニ勤仕ス文禄四年秀次叛逆ノ夏  
ニ拠テ一忠ヲ秀吉命セラレテ上杉越後守宰  
相景勝ニ預ケ自歿セシム詳ニ大閣記ニ載ス  
同四年古田兵部少輔重勝豊臣氏ノ命ヲ奉メ  
~~江~~州日野城ヨリ迂轉シ本知三万四千石慶長  
六年二万石増賜ニ合五石四千石慶長十一  
年六月十六日東都ニ在テ卒ス瑞雲寺殿天觀  
道運大居士ト号ス享歳四十其嗣古田大膳大  
夫重治給ス元和五年石見州濱田ニ轉迂シ同

五年紀州別府トノ高十七万九千八百三十四  
石八斗六升一合本州ノ内松坂領田丸白子領  
惣裁第一ノ処トノ城代在番ノ諸士ヲ置ル前  
主ノ次第左ニ列ノ詳ヲカニセリ  
弊陽軍記曰元龜元年潮田長助四百森ニ城  
ヲ築キ大乱ノ時ハ不築ノ今築ハ了ト邊トテ  
人人笑シ云云或云潮田長助ハ曾原天花寺越  
中守縁者ニテカヲ戮セ四百森ニ城ヲ築キ  
楯籠ル曾原落城ノ由ヲ聞テ長助四百森ノ  
城ヲ開キ渡ケル潮田カ父潮田小五郎ト謂ハ  
リ三州吉田辺ノ農家ノ子ナリ大木ヲ曲テ腰  
ヲ掛大竹ヲ挫テ帶トセシカ者ニテ名ヲ顯セ



リ其母宿願アリテ同州鳳來寺薬師ニ詣リ徑  
道ヲ經ケルニ米ニ俵負タル牛ニ坂半ニテ行  
合小五郎母腹立テ笠ヲ下女ニ持セ米負タル  
牛ノ前足ヲ取り引被キ二三丁下リテ田ノ畔  
ニソヲロシケル是ヨリ世人牛負田女房トリ  
謂ケル其子小五郎母ノカヲ繼テ大カアリ或  
時伊勢参宮シケルカ九尺四方ノ室ヲ彼母ト  
~~テ~~七歳ナル妹ナリケルヲ入レ雜具ヲモ持メ  
自ラ負フテリ参リケル其帰途ニ四百森ニ  
テ北畠具教郷此形勢ヲ見玉ヒ大カノ程ヲ御  
感アリ扶持シ四百城ヲ預玉ヘリ其子長助  
モ又普通ニ勝タル力量アリトソ長助ハ国司

家ニ仕ヘテ永祿十二年大河内籠城ノ時モ城  
兵ノ人数ノ内ニアリ或曰飯高郡塚本村ニ  
潮田塚ト云アリ潮田長助在処ニテ死ノコト  
ニ葬ルト云傳フ是ヲ以考シハ長助ハ塚本ノ  
佐士ニテ四百森ニ出張セシトモアルハシ  
然レモ城ヲ築クト謂ハ不審ナリ疑ハ好夏者  
ノ説ナルヘシ其故ハ寛永十五年神戸佐右衛  
門所述ノ伊勢軍記明曆二年山中兵助所記ノ  
勢陽雜記ニ各松鷲城ヲ四百森ニ移ス由ヲ  
載テ長助始テ城ヲ築クヲ不記原來此ト無  
キナルヘシ以上松坂雜集ニ載ス  
北畠物語云永祿十二年十二月信長卿織田掃



部助ニ命シ南方ノ諸城ヲ破ントシ玉フ即掃  
部助稻生勘解由左衛門尉ヲ案内者トノ先舟  
江ヨリ矢倉ヲ崩シ堀ヲコボツヘキ旨相觸ラ  
ル彼兩人曾原城ニ至テ右ノ趣ヲ言渡ス時城  
主天花寺小次郎コレヲ用ヒス伊賀侍ニ下知  
メ忽稻生方ヲ討殺ス故勢州又騷動ス明ル元  
龜元年伊勢兩家ノ諸士付城ヲ拵ヘ責動カス  
~~此~~騷ニ拠テ諸城ノ内一城破ルアタハス却  
テ潮田長助等新城ヲ四五百森ニ築ク此山  
ハ名所ナリ古哥ニ  
いせの國よいの森はともきひ名の玉持のきひはち  
是當処ヲ讀ルナリ潮田長助最前大乱ノ時ハ

城ヲ不作メ今斯ルハカラヒハ跡辺ナリトテ  
皆人はヲ嘲ル彼長助カ父ハ勝レタル大カニ  
テ天下ニ隱レナキモノナリ肥牛ノ四足ヲ持  
指上ケテ道ヲ過キ行或ハ大木ヲ曲テ腰ヲ懸  
木竹ヲ相ニ挫テ帶トシ或ハ大門ノ扉ヲハツ  
シテ流水ヲ防クナト更ニ凡人ノ所行ニアラ  
ス 雜記云此処ハ古ハ城モナク四五百森ト  
テ名所ナリ伊勢國よいの森をの森云々元龜元年  
ニ潮田長助ト云者始テ城ヲ築ケリ 今詮ス  
ルニ北畠家臣潮田某元龜元年織田信長南伊  
勢諸城割別ノ防戦ニ南方処々ニ城砦ヲ築ク  
時此地ニ今ノ城砦ヲ創テ造ル処ハ既ニ北畠



物語ニ拠テ煥然タリ猶雜記雷同ノ然リトス  
松坂襍集所謂ハ勢陽軍記ト称スルハ即北畠  
物語後世ノ一名ナリ又雜記伊勢軍記ニ不載  
スルハ妄ナリ雜記既ニ然リ北畠物語ハ本州  
軍籍ノ古雅ニノ其餘ハ潤色セルモノナリ故  
ニ古録ヲ摘テ往々ニ載ス伊勢軍記或勢陽軍  
記真字假字ノ二本アリ後人ノ飾ル処ニシテ  
強テ不載採処ナリ四百森ノ名徴ハ旧本各  
其款ヲ得ス今コ、ニ載テ後考ヲ求ム方俗  
四百森ト填テヨイホ或ハヨヒノ森ト称ス  
大神宮御領四箇生御園ノ地ニノ後人四百  
ニ作ルナルヘシ旧名區ニノ城郭ノ中ニ稍ク

其遺址ヲ存セリ古昔惣メ今ノ城地ヲ指ノ称  
セシナリ永享五年三月足利義教普光院將軍  
伊勢參宮ノ時權大僧都堯孝法印供奉紀行云  
此以の月忍る月の森なる及は旅人の立やよま

元禄二年九月新玉津島祠官北村季吟伊勢參  
宮記云

本れるもる月と海とどしとの森とありふつくし  
元禄七年清水百齋俳諧集序云

いせの國よいの森はかきまけすれやとするまはれ  
ては月れよいの社の時をたのまはらるるまをや

けしつ川此奇々里人此久く語り傳ふる事  
してよめお人詳なれば奇々かすは四女百



の森々神風や伊勢此國飯高郡牧此里神戶乃  
里此中乃立くおさく名も志々ぬ深山木と  
も志けいふ中よ何れ志々いよや枚の一と  
此有り杉の森どりあを是又ひくれてなほ  
いよ或々里人此よい乃森ゆいよもあーや々  
いよ久々これ天正一々軍あさく此つち  
のえ子にやとほのち乃里此名もおちあま  
や、と記され此松さあえり子と世のうけよ  
此もさくことのためえはけりれ々下畧雜記に  
すれや々けを名けりかけさるるは

今詳ニスルニ考竟法印供奉紀行ハ永享五年  
三月廿一日將軍大神宮ニ詣同廿一日還御度

會郡山田ヲ發シ安濃津ニ其夜宿シ玉フ此時  
今ノ松坂駅ハナシ前ニ謂古昔ノ街道郷津ヨ  
リ平尾ニイタル片此海瀨ノ間ヨリ其地ヲ臨  
テ詠ス処ナルヘシ又北村季吟叅宮記モ然リ  
各宵ノ森ト稱ノ月光ニ對ノノ意ヲ詠セリ既  
ニ和哥所法印ヨヒノ森ト稱スニ從テ旧訓ト  
スヘシ四五百ハ後人ノ填ル処ニシテ實ハ四  
藺生ナルヘシト云一説アリ孰レ前ニ所謂ノ  
牧ノ里ハ即今生神戶ノ里ハ今ノ下村即神戶  
六郷ノ内ニノ神鳳抄所謂四藺生御厨ノ地ナ  
リ然レハ四藺生ハ多氣郡部ニ載テ本郡ニ録  
セス今神戶六郷ハ各本郡ニ隸シリ蓋神鳳抄



ハ古記ニノ今古郡ノ差誤多シ一槩ニ論シ難  
シ猶神戸ハ百九十三町三段御神酒三並長筵  
二十四枚奈料并造酒米三十八石懸刀稻四十束  
端裏筵十四枚長筵六枚羊魚郡所當御神酒米  
一石筵六枚御鮓米廿七石一斗在粮料八石四  
十石二斗云云今ニイタリ藺筵ヲ大神宮遷宮  
ノ度ニ貢獻スル処ナリ故ニ其神社ヲ意悲ト  
稱スルモ藺ノ長ク韻キタル音ヲ以テ名ケ四  
藺生ト稱スルモ各藺席ノ縁ニ因テ其藺ノ貢  
獻ノ迹キ処ナル工ヘニ四藺生ト稱タルヲ後  
世四五百ト訛傳シ或ハ国風ニ月光ニ連続ノ  
霄森ト詠スルヲ幸トノ四藺ノミヲ今俗モ稱

来ルニ習ヘリ惣ノ此森ノ名ハ古昔城疊ノ地  
ノ惣名ナルヘシ然ルニ經營ノ時モ其古墟ノ  
名蹟ナレハ其容ヲ遺失セサラニ為ニ今ニ稍  
ク其蹟ヲ存セリ

八幡祠 城地ノ西深奥ノ処ニアリ天正十二  
年蒲生飛彈守經營ノ時鎮守トノ壇ヲ築杉樹  
ヲ栽テ正八幡ヲ勸請ス又古田兵部少輔居城  
ノ片偈仰ニ拠テ稻荷神ヲ並セテ相殿ニ祀シ  
リ享保三年十一月 国君本州田獵ノ時在城  
其檢官鳥井源之丞其命ヲ奉ノ同四年正月十  
五日ヨリ造社ノ事ヲ始テ同三月十五日落城  
ノ後遷座アリテ嚴重ニ祀シリ 蒲生飛彈守



藤原氏郷傳其遠祖ハ依藤太秀郷近江州田原  
ニ歷代任ス故ニ田原ヲ以テ稱号トス秀郷次  
男藤原千晴六代ノ裔惟俊治兼年中陸奥州ヨ  
リ來住ノ蒲生郡ヲ領ス蒲生太郎ト稱セリ同  
州日野牧及音羽城ヲ築居ス其男俊賢鎌倉ニ  
奉仕ノ繁昌ニ及フ俊賢七世ノ孫蒲生秀朝ト  
稱ス秀朝ヨリ七代ノ孫蒲生貞秀薙髮ノ知閑  
ト号ス其男三人アリ嫡男蒲生秀行足利義晴  
將軍ニ屬ス早世セリ二男左衛門大夫高郷三  
男藤兵衛尉秀紀十リ高郷男定秀日野城ヲ繼  
テ任ス其嫡蒲生藤太郎賢秀始ハ佐々木義賢  
ニ屬ス後織田信長ニ奉仕ス賢秀ノ男幼名鶴

千代後ニ忠三郎ト稱ス信長其才ヲ愛メ其女  
ヲ以テ配ス信長災ニ罹リ豊臣秀吉柴田勝家ト  
権ヲ爭フ其屬スヘキヲ不識蕃筮ヲ執テ占メ  
云坤卦ヲ得夕リ易曰南得朋東北失朋勝家江  
北ニアリ秀吉南位ニアリ遂ニ秀吉ニ歸ス果  
メ天下一統ニ勢州松ヶ島城ニ遷居ス天正十  
二年本知増一倍ヲ賜ル本知八万石加増十万  
石合十八万石ナリ同十六年松ヶ島城ヲ同郡  
松坂ニ遷ス同十八年四月豊臣氏相氏北條氏  
政ヲ撃時ニ下野小山ニイタル氏郷隊下ニア  
リ命メ曰細川忠兵衛越中守ヲ陸奥州會津  
ニ恩賜セントス忠貞乞テ曰恩遇ニ堪テハ小



國トイヘ<sub>ニ</sub>西州ニ給セ<sub>ニ</sub>ト故ニ<sub>ニ</sub>氏郷ヲノ奥  
州會津及仙臺白河ヲ並領シ同州若松城ニ遷  
ス時ニ六十万石ヲ給ス同十九年同九ノ戸戦  
功ニ拠テ米沢領ヲ増賜メ總テ百万石ニ至ル  
蒲生氏郷松ヶ島ニ封セラシメヨリ爵禄益加  
ハリ武名轉盛大ナシハ吾家ハ松ノ字ヲ用テ  
吳瑞トスト賞ノ四五百森ヲ松坂ト称シ會津  
ノ城地モ若松ト称セシモ此意ナリ文禄四年  
二月七日逝ス時ニ四十歳ナリ其男鶴千代十  
三歳<sub>母ハ織田信長ノ女</sub>元服藤三郎秀隆ト号ス<sub>後ニ秀行ニ改ム</sub>  
四位侍從ニ拜シ飛彈守ト称ス豊臣秀吉媒ト  
メ東照神君ノ御塔ニナル其後騷乱ノ<sub>ヲ</sub>ア

リテ秀行幼稚ノ間ハ會津ヲ没納ノ上野州宇  
都宮十八万石ヲ給ス秀吉薨<sub>ル</sub>後慶長六年八  
月再會津ヲ給領シ六十万石移ル同十七年五  
月十三日病卒ス三十歳ナリ其嫡子下野守忠  
郷繼テ松平姓ノ御諱忠字ヲ賜フ松平下野守  
ト称ス寛永四年正月四日痘瘡ヲ患テ卒ス二  
十五歳ナリ嗣子ナキカ故ニ領知ヲ没セラレ  
然レ<sub>ニ</sub>氏旧家ナルカ故ニ断絶ナシ<sub>テ</sub>難ク舍弟中  
務少輔忠知伊豫州松山二十万石ヲ給シ從四  
位下侍從ニ任ス同十一年八月十日病卒ス三  
十歳ナリ此時ニ室家姪娘ナリ女子ニテモ相  
繼ヘキノ<sub>ニ</sub>台命アリ然レ<sub>ニ</sub>氏女子生産ノ後早



世スコ、ニ拠テ蒲生家断滅セリ。忠知ノ室  
ハ内藤九馬頭ノ長女ナリ。正壽院ト号ス。元禄  
十三年六月廿六日卒。八十五歳。

秀行系譜 秀行 | 忠郷 松平下野守 童名亀千代丸

忠知 松平中務大輔 童名鶴千代丸

女子二人 加藤肥後守忠廣室 同豊後守光正室

秀行三子ノ母堂ハ

東照神君ノ御女ナリ。秀行逝去ニ拠テ。元和二  
年。台歎廟ノ御養女トシテ。浅野但馬守長晟ニ  
再嫁ス。浅野光晟ノ母ナリ。蒲生記曰。天正十  
六年。戊子春ノ頃。関白殿。秀次。西京ニ御在城ヲ  
建玉ヒ。聚樂城ト名ラシ。其額。江州建部傳内書

之シノテ。目出タカリシ御城ナリ。同四月十四  
日。主上新造ノ御所。聚樂城ヘ行幸ナルトキ。主  
上。獻感ノ餘リニ。関白以下ノ諸大名。除目行ハ  
シシニ。氏郷朝臣ハ。正四位下。左近衛少将ニ任  
セラレケリ。同年秋ノ頃。氏郷朝臣モ。松島ノ在  
城ヲ。四五百森ニ移サレケリ。此トコロ。旧トハ  
大カノ覺トリシ。伊勢国。任人。潮田カ。城ナリケ  
リ。在所ハ。誠ニ小ケレ。凡地形。廣メ。舟江ヘ。続夕  
ラニニ。於テハ。栄ユヘキ。処ナリト。氏郷自身。目  
明シ。アリテ。移サシケル。氏郷朝臣。松島ニ在城  
アリシヨリ。一段ト。仕合ヨク。初月ノ宵々ニ。光  
ヲ。増セ玉フカ。如クナラシ。兎角ニ。吾ニハ。松ノ



字吉相ナリトテ此四五百森ヲ改テ松坂ト名  
ケラレケリ漸々普譜モ出来セシカハ實ニ松  
ノ若緑ノ春ヲ待得テ生スルカ如ク日々ニ増  
テ繁昌シケリ爰ニ種村大藏入道慮齋ハ本ト  
信長公ニ仕ヘテ御咄ノ衆ニテ候シカ今氏郷  
ノ家ニ仕ヘテモ同ク嘯ノ衆ニテリアリケル  
今度家中ノ面々松島ニテ屋敷ヲトリ美々敷  
家ヲ建シニ慮齋カ庭ニハ富士山ヲ築タリト  
聞ヘシカハ或トキ氏郷去ラハ御邊カ庭ヲ見  
ニトテ態々参ラシケルニ彼築山ヲ見玉ハハ  
頂九キ山ナリ氏郷ハ一年信長公武田退治ノ  
時東国下向アリテ富士山ヲ一見アレハコハ

如何ニカハ富士山ハ聞モ見モ及ハヌト笑  
ニ興セラレテ硯料紙ヲモ乞出サレ一首ノ短  
冊ヲ讀ミテ此築山ニ立テリ帰ラシケリ  
富士足ぬ富士より似ぬを松坂此慮齋の在此標子本々嶽  
氏郷朝臣松坂へ在城ヲ迂サレテ後世ノ人松  
坂ノ小ノ將トソ申ケル 多氣實記卷五云  
蒲生下野守入道快翰子息左京大夫賢秀ハ日  
野城ニ篋リ武威ヲ震フ中畧蒲生賢秀カ子鶴  
千代丸ヲ人質ニ觀音寺ノ城ニ送り信長ニ祝  
義ヲ述玉フ信長一目見玉ヒテ此児眼サシ常  
ナラス必武藝有ヘシ我塔ニスヘシト約束セ  
ラル云云明年信長ノ九歳ノ息女ヲ給ハリ祝



言相濟後 = 鶴千代元服ノ蒲生忠三郎氏郷卜  
名ツケ玉ヒケリ

羽柴筑前守秀吉知行割

一 一志郡高六万二千八百六十六石八斗六升之

内北 = 付ル

三万石 民部少輔殿自分 三千石 榊原

二千八百石 藤方 五百石 長野左京

五百石 水谷 三千石 河北左介

二百石 無軍役 垣河治介

合四万石 松ヶ島廻リヨリたけ谷迄北 = 付ル

算用次第 二万二千八百六十六石八斗六升

蒲生飛彈守

一 飯高郡 二万八千五十九石六升 飛彈守

一 飯野郡 一万六千三百二十石三斗八升

一 多氣郡 二万四千百八石二斗

飯野多氣兩郡 合四万四千二百二十八石四斗之

内 三万四百二十八石四斗 飛彈守

御藏入 一万石 此内千石 上部越中

一度會郡 二万八千七百石九斗七升之内

三千七百石九斗七升 飛彈守

飛彈守自分 合八万五千百五十石八斗三升

一万石 田丸

一万石 九鬼

一 八千石

関本知分



一二千石 河曲郡神戸ノ内ヲ以同新知分

合一万石

大和国宇陀郡一圓飛彈守 江遣ス内

一万三千石 澤秋山芳野

飛彈守自分

合十二万三千百五十五石

以上 筑前守

天正十二 甲申年九月 秀吉判

松坂雜集曰服部采女正一忠天正十九年辛卯

関白秀次公依命松坂城主トナリ於南伊勢三

万五千石一忠ニ賜フ聚樂城ニ在勤シ家臣石

黒毛右衛門尉松坂ノ事ヲ関ル関白秀次公逆

心ノリニ付文禄四年未七月大閤秀吉公ヨリ

采女ヲ上杉景勝ニ預ラル其後生害ノ由幼息

乳人介抱メ大崎玄蕃家ニ退ラル又服部菜女

正ハ越後宰相同妻子ハ吉田清右衛門尉ニ預

ラルト大閤記ニ見夕リ又曰古田兵部少輔

重勝文禄四乙未年大閤秀吉ノ依命江州日野

ヨリ松坂へ移城本知三万四千石関原御在陣

以後二万石増禄都合五万四千石武府御普譚

ニ参勤慶長十一丙午年武府ニ於テ病卒ス二

万三千石加増アリ都合六万石トナル慶長十

一年六月十六日卒号瑞雲寺殿天觀道運大居

士年四十歳 今詳ニスルニ本知三万四千石



増加二万三千石總計五万七千石ナリ然ルニ  
六万石ト填ル井ハ三千石不足ナリ本知疑ハ  
三万七千石ナルヘシ兵部少輔藤原重勝ハ古  
田吉左衛門尉信勝ノ嫡男ナリ信勝ハ羽柴ノ  
侍大将ニ入播磨州三木城ヲ撃ノ時戦死ス  
伊勢戦記曰慶長五庚子年秋上杉景勝逆心ノ  
由聞ユルニ付松坂城主古田兵部少輔重勝同  
八月十二日辰刻ニ松坂ヲ進祭ニ大口浦ヨリ  
出船翌日吉田ヘ着猛勢ニテ路ツト同処ニ  
二夜逗留次日小田原ヘ着夕リケレハ石田  
治部少輔上方西国ヲ催ニ津松坂岩手ヘ祭向  
ノ由達上聞兵部少輔ニ御暇ヲ被下八月十

九日帰ル同二十二日吉田ヘ着ケレハ松寄ノ  
庄官松島長左衛門舟ニテ迎ニ参着ニ同八月  
廿三日未明ニ出船同日篠島ヘ着ク処ニ志州  
島羽ノ九鬼大隅守兵部大輔ヲ討ニ為ニ海賊  
数多出ケルト聞ヘケレハ篠島ニテ時ヲ移シ  
夜中ニ大口浦ニ着ケル其節高野木食上人松  
坂ニ来リ大坂ノ味方可然由異見申ケル其上  
大垣城主福原右馬介麾十本弓十挺鉄炮二十  
挺鎗一本持セ足輕数多召連シ松坂岩手ヘ昼  
夜馳廻リ異見申ケルハ津城ハ時刻ヲ不移攻  
落スヘシ次ニ西城ヘ取掛申ヘキナリ是非一  
同致サルヘシト強テ申ケレハ各兼列ナシ去



程 = 津城へハ小西撰津守浮田宰相長東大藏  
増田右衛門尉大谷刑部福原右馬介石子掃部  
安藝毛利ノ家老吉河小早河都合八万八千人  
寄セ来ル由 = 付上野城主分部左京亮加勢ノ  
津城ヲ堅ム右ノ様子正兵部少輔ヨリ江都へ  
段々注進申上ラレ陸地ハ道中難凌 = 付松崎  
浦主水藤原次郎介善次郎獵師村甚十郎以上  
四人舟一艘 = 打乗テ御注進任リ尾州床鍋浦  
ヨリ帰ル鳥羽城主九鬼大隅守付置之海賊正  
黒部浦郷ノ淵 = 正見附鳥羽へ連レ行三人ハ  
小濱 = 正殺ス次郎介一人ハ助ケ返シケル其  
後松崎浦獵師村ノ者大事ノ用 = 立 = 付兵部

少輔ヨリ褒トメ松崎ノ屋敷方高三十五石三  
斗三升獵師村屋敷方五石五斗七升五合免許  
ノ證文ヲ給フ  
今度其地之加子共上下ほ子と切リ忠節任  
候 = 付為御褒美松ヶ嶋高之内いふへ  
地子三十五石三斗三升之處被下候其分可  
相心得候以上  
慶長五年十一月廿日 松崎庄屋  
獵師村證文ハ火災 = 焼亡  
ス今 = 到リ領主ヨリ免除也  
既 = 津城急 = 攻ラレ、片兵部少輔ヨリ加勢  
ヲ被遣物頭 = 八林宇左衛門水谷淺右衛門津



田左門人見伊右衛門小関四郎右衛門見玉仁  
兵衛田中左近以上七騎此外雜兵多馳セ参之  
カ左猛勢ニテ四方ヲ困ヌレハ城中へ入ヘキ  
様ナカリニ処ニ小関四郎左衛門下知ニテ家  
來次郎八鉄鉈ヲ折掛大勢ヲ散々ニ濱手ノ  
備ヲ打破リ漸ク門内へ入ル処四郎左衛門我  
カヲ家來次郎ハニ取ラセケル由同二十六日  
木食上人舟江ノ薬師堂ニテ古田兵部少輔ニ  
對面申ケルハ異見兼引無之上ハ明日松坂城  
へ取カケ侍ヘキナリ近比笑止ナル義ト申ケ  
ル兵部少輔思案シ長臣古田長助左衛門ニ相  
談ニ助左衛門申ケルハ只今ニテ大御所ノ御

味方トナリ今更思案スヘキ所ニ非ス其上我  
世忤小熊江戸ニ召置シ候ヘハ父子各別ニ成  
リ難ニ存且又主命ヲ背ケハ本意ニ非ス只御  
暇給ハリテ切腹可仕トテ其終弥勤院へ参リ  
切腹ノ用意シケレハ兵部少輔驚キ助左衛門  
方ヘイヒ遣ケルハ其方申旨至極セリ此上少  
モ別心ナシ自害止ノ帰ヘシト押留ケレハ助  
左衛門申ケレハ御同心ノ上ハ私望ニ達セリ  
夕トヒ敵兵数万騎來ルハ此助左衛門ニ御任  
セ候ヘト悦進ムアリサマ天晴見ヘシ其片  
敵急ニ押寄來ル由聞ユレハ松坂町騒動シ財  
宝ヲ抱キ近郷へ逃走ル強盜多ク乱妨ス古田



助左衛門下知ニテ強盜一人ヲ搦捕本町ノ辻  
ヘ引出シ助左衛門手ニ掛テ胴切ニシケル夫  
ヨリ事静ニリナリニケル去程ニ津城ハ八月  
廿四日ヨリ廿六日マテ攻戰同廿七日高野木  
食上人扱ヒニテ城開渡シ信濃守左京亮ハ先  
ツ一身田ヘ引退ケル其後関ヶ原西方敗軍ノ  
由風聞ニ付古田兵部少輔津ヘ押寄セ早々城  
相渡スヘクト長束大藏方ヘ相届ケ藤方山  
三日陣取ケレハ大藏是非ナク城ヲ明渡シ関  
ノ地藏マテ退ケル又其比山田中島ニ北庄藏  
ト云モノアリ松坂古田兵部少輔岩手稲葉藏  
人西人宇治山田ノ御代官ニテアリシ然ルニ

庄藏右兩人ニ背キ鳥羽九鬼大隅守ニ一味ノ  
中島ニ楯籠藏人大輔同年九月朔日未明ニ発  
向メ中島城ヲ攻破ル処ニ大隅守後巻ニ出ル  
由聞ヘシカハ古田モ稲葉加勢ノ為齊宮マテ  
馳向ハレケリ藏人大夫無難ニ退治シ岩手ヘ  
引取シカハ九鬼モ古田モ双方ヘ引返シケル  
トナリ或記云慶長五年八月廿四日羽柴下  
総守木食上人右二人松坂西町梅屋市郎大夫  
処ヘ来リ古田助左衛門ヲ招テ申ケルハ津ノ  
城ハ噯ニナリ埒明候爰許ノ義可有同心哉ト  
申助左衛門答ケルハ兵部留守ノ義ニ候ヘハ  
城開渡シ申義ハ難成候ト返答ス左アヲハ明



日是へ責寄へシト申候へハ中々愛可申ト申  
ニ付西人ハ即帰ケル然レ其後何人儀勢モ無  
之候云云 関原戦記曰毛利宰相秀元長曾我  
部土佐守盛親長束藏人大輔正家安國寺主長  
老人數三万ニテ伊勢國津城ヲ攻落ス云云勢  
陽雜記ハ八万餘騎ト載タリ 古老傳曰松坂  
へ敵急ニ押寄來ルト所中ヲ一時ニ觸行モノ  
アリ捕へテ糾問シケレハ寄手方ヨリ價ヲ以  
テ憑マシ如此ト白状ス此者出処ハ黒田村ノ  
無宿ノモノナリ即黒田村ノ道路ニ晒シ斬戮  
セラレタル由右ノ場処ヲ業架橋ト云今云新  
田ノ入口ナリゴウガト云名ニテアリシヤ

藩翰譜曰鍋島信濃守勝茂一万餘騎ヲ引具メ  
松坂城ニ押ヨセ此城モトヨリ究竟ハ要害輒  
ク攻落サルヘクモアラス又勝茂カ父直茂カ  
許ヨリ使來テ勝茂ヲ堅ク制シケレハ遠攻ニ  
ノ日數ヲ送ル関原味方破ルト聞へテ寄手終  
ニ引返スレハ重勝終ニ城ヲ落サリス 雜記  
所載兵乱記云慶長五庚子年古田織部少輔城  
主トノ六万石ヲ給リ幾程ナク死去ス其子幼  
稚三歳故兵部少輔弟大膳大夫ニ兄ノ跡ヲ相  
續シ兵部少輔ト名乗ヘキヨシ命セラレシカ  
ハ大膳大夫難有ナカラ兵部少輔カ子ヲ養  
育シ成長ノ後父カ跡式ヲ名乗ラセタキヨシ



申上ル家康公今世希ナル廉直ヲ感玉フ元  
和六年ノ比六万石ノ領知ヲ渡シ父カ家財茶  
具等ニ至マテ不残譲リ其身ハ東武ニ潔白ヲ  
樂ニ幽栖ニ間居シ侍ル又曰慶長五年石田  
治部少輔謀叛ノ時九鬼大隅守一味ノ和州宇  
多郡多賀出雲守朽木河内守等ヲ誥ヒ伊勢国  
へ裏入ヘキ由聞ヘシカハ古田兵部少輔稻葉  
藏人大夫談合ノ多氣谷河保谷五箇方々処々  
ノ農兵ヲ催シ谷嶺道筋ニ鉄炮ヲ用意シ敵  
寄来ハ然々ニセヨト命ノ待居ケレバ多賀朽  
木伊賀ヨリ引退ク松木雜集云古田大膳大  
夫重治ハ兵部少輔重勝ノ嫡子希代九後兵部

兵部少輔重恒ト云幼少ニヨリ後見トシ相續  
被仰付慶長十九寅年松坂ニ休息元和五年  
御上洛ノ時伏見參勤ノ節石見濱田ニ所替被  
仰付同七月伏見ヨリ直ニ濱田へ移城ノ由誥  
傳フ大閤記曰秀吉公播州三木城ヲ打圍玉  
フ比古田彦九衛門ト云小姓アリシカ三木ヨ  
リ夜討入シ片討死ス其子古田兵部少輔同大  
膳大夫トテ二人アリ慶長五年勢州松坂城主  
トメ六万石ヲ領シ其後兵部少輔身ニカリ又  
三才ノ孤アリ前將軍大膳大夫兄ノ跡ヲ相續  
シ即兵部少輔ト名乗ヘキ昔御掟有シカハ辱  
御下此上有ヘシ氏覺へ奉ラス孤ヲ人トナシ



父ノ名ナレハ兵部少輔ト名乗セ度由望ケレ  
ハ家康公今ノ世希ナル者哉ト感玉フ孤漸  
ク長リシカハ父カ茶具不残目禄ヲ以元和六  
年ノ比相渡シ勿論六万石ノ地ヲモ附與之其  
身ハ物寂キサマニテ在江戸之侍リキ潔白十  
ルヲ誰カ此上ニ立コヤ云云松坂雜集云元  
和五巳未年紀府御領城トナル家臣大藪新右  
衛門某井村善九郎某笠原助左衛門某古田家  
臣古田助左衛門ト松坂ニテ出會御城請取渡  
シ右大藪氏暫ク逗留諸事作畧同年長野九左  
衛門清貞御代官トノ松坂到着寛永十四年丑  
マテ在役ニテコレヲ司トル御堀内畠ハ古

田家士本田甚七馬場三左衛門加賀見次兵衛  
其園治右衛門望福善兵衛勝見半兵衛日比傳  
右衛門素原弥右衛門村瀬忠左衛門兼竹八右  
衛門見玉七郎左衛門同仁兵衛坂口又左衛門  
河瀬三郎左衛門佐藤武兵衛杉本五左衛門林  
小右衛門佐々木四郎次郎松井佐吉服部是三  
和田五左衛門内海理左衛門永谷藤兵衛等屋  
敷跡ナリ御城番同心六人ニ被下寛永十五寅  
年ヨリ地貢上納ス又正保二年ヨリ同心一人  
ニ畑五反居屋敷二百步宛被下寛文九年俸二  
石宛加増又延宝二年大檢地アリテ餘地ヲ同  
心十四人ニ被下各地貢上納ス



御鷹部屋八幡祠 今ノ西役々廳ノ地内ニアリ  
勸請年月未詳石塊ヲ以神体トセシ故ニ石神  
八幡氏稱ス此地旧ト鷹匠屋敷ナリ元禄六年  
ヨリ當役屋敷トナル代々偲仰アリ恒例ノ神  
樂近代ニ至リ断絶ナク今モ鷹部屋八幡ト稱  
セリ  
勢陽五鈴遺響飯高郡卷之八終

勢陽五鈴遺響飯高郡卷之九

西松坂府坊間  
本町 天正十六年松ヶ嶋ヨリ移ス  
太手町 天正十六年松ヶ嶋ヨリ移ス往昔ハ巧  
匠ノ所居ニ聞シ匠染匠多メ今ニ至リ巧匠モ  
染匠モ亡シ何ノ故ニ稱セルヤ未詳  
莛屋町 莛屋町廻リ年貢地ニメ民屋新町ニ屬  
セリ往昔同郡驛部田ヨリ莛ヲ織ル民來居メ  
業トセリ故ニ名ク當今ニ至リ亡シ  
魚町 天正十六年松ヶ嶋ヨリ移ス一町目ヨリ  
四町ニ至リ魚町ト稱メ魚肆多シ 此地ノ住



久保川勾當一志郡宮野ヨリ來住ノ惣所散在  
魚ノ警者ノ總宰ヲ掌ル十二人配下アリ国司北  
畠家ヨリ賜フ判物アリ

座頭之儀ハ天下如法度借物買地德政不被  
行候竝雖為御關所不可有別義候其外諸役  
一切可為如先規此旨可被申聞者也

天正四卯月廿八日

信意判

山本與六郎殿

前田新兵衛殿

西町 旧ハ藪西ノ庄村ナリ西町ト称スルハ市

廓ノ西ニ居ス故ニ非ス西庄町ノ轉畧ナリ一

町ヨリ四丁目ニ至ル

極樂町 極樂町西ノ庄録田久保等町廻リ入組

ノ奉貢地ニメ民屋西町ニ属セリ往昔古田兵

部少輔城府ノ時ハ善久ト非人ノ魁首並配下

ノ乞丐等此処ニ居スルニ官道ニメ往還ノ目

ヲ避テ今ノ居処小人町ニ迎セリ然後

彼華兒等ノ堺界ニ拠テ兵器樂町ト俗語セシ

極樂町ト轉セシト傳ヘリ

百足町 旧ハ叢竹林ニテアリシヲ西町ノ住人

鳥谷屋清右衛門法名清圓者此地ニ家ヲ造リ

西北ノ山民ノ通路ヲ關キ始ム是ヨリ往昔ハ

本郡曲村西町ニ丁目ニ出タリ今ニ村郷ノ領

ニメ市廓ノ属ニ非ス百足町ノ名称ハ坊間ニ





昆沙門堂ノ所有ニ拠テ称セリ  
河井町 耕田年貢地ニノ民家ハ西町ニ属セリ  
火災消除ノ為ニ河水ノ因テ称メ河井町ト名  
夕新河井町是ニ續リ  
新規町 旧ト古田家城宰ノ時藩士ノ宅地ノ趾  
ナリ新規ハ旧町ニ對メ後ニ称セリ  
新座町 旧ト古田家藩士ノ宅地ノ趾ナリ新座  
モ新規ニ相同ク旧町ニ對メノ名ナリ  
瓦町 旧ト古田家藩士ノ宅趾ナリ寛文中瓦  
匠富島吉兵衛者尾州ヨリ來移メ瓦ヲ造リ其  
裔相繼テ今ニ業トセリ故ニ名トセリ古田  
鉄炮町 天正十六年松ヶ嶋ヨリ移ス

湯屋町 往昔此处ニ浴湯室アリシニ拠テ此称  
アリ旧ハ大手町ノ属ナリ  
工屋町 天正十六年松ヶ嶋ヨリ移ス  
黨陰橋 同处ニアリ古田大膳大夫ノ得意ニ拠  
テ黨陰ト云僧此地ニ菴居ス故ニ名トス古田  
彦石州濱田城ニ移ルノ後此僧退居空地トナ  
リシヲ樹教寺ヨリ郡宰長野九左衛門尉ニ訴  
ヘ寛永四年ヨリ此寺ニ寄ラル利道ト云僧ヲ  
菴居セシヨリ利道橋トモ称スコノ庵今正樹  
軒ト称ス  
紺屋町 天正十六年松ヶ嶋ヨリ移ス此地旧ト  
染匠多シ故ニ名ツク今ハ亡シ町ノ名ノミニ



遺シリ

矢下町 本町ノ横小路ナリ

城坊小路 本町ノ横小路ナリ密藏院ヲ建ル故

ニ此称アリ其餘ニ詳ニセリ

博芳町 天正十六年松ヶ島ヨリ移ス馱馬ノ役

ヲ勤ム傳馬三十一匹天和九年三月郡宰長野

九左衛門其定置ル処ナリ右傳馬毛替料トノ

兼應三年ヨリ金九十三兩年賦ニ并借ス往年

千田新七者尾州ヨリ松ヶ島ニ來リ住シ天正

十六年府城ニ移居スニ代杉左衛門者馬乗ニ

達シ城主古田大膳大夫元和中大坂役ニ召具

セラルヨリ今ニイタリ傳馬ノ下ヲ此町ニ掌

ル免許状ノ案アリ

已上

服部采女正免許

馬町之儀如前々飛彈守任拵帛申付候向後

違乱有間敷候為其如此候也

卯月十一日

石黒毛右衛門尉

貞秀判

馬くら町新七のへ

已上

蒲田兵部少輔免許

馬町之儀如前々倭正任拵帛申付候向後違

乱有間敷候為其如此候也

八月廿一日

古田兵部少輔

重勝判



杉丸衛門

外傳勞町 正徳元年十月中町亀屋徳兵衛控ノ  
畠地ニ水車舎ヲ建始シヨリ今ニイタリ町家  
ヲ建續ケリ

中町 天正十六年松ヶ島ヨリ移ス南北ヨリ城  
府坊間ノ正中ナリ故ニ名ク

肘折橋 同処ニアリ 或ハ肘折取橋ト云方俗

ヒシリ橋ト畧称ス此町ノ正中ニシテ民戸ノ  
双傍ヲ稍ク右方ヘ屈スル処ナリ此橋ノ前ヨ

リ折屈スルカ故ニ名ク旧俗ノ踊謡ニいせの  
松坂い川来々尺とひさのど里すてまぢこ

ろし袴ニ寄セテ作タルナリひぶハ襦ニメ飛

彈守ヲ風セリまちハ襦ナリ町ト同シ天正十

六年移城ノ片蒲生氏ノ所造ニメ道路ヲ斜ニ

メニ町前ヲ隠ス兵伏ノ備ニ巧ミ町割ヲナセ

シ処ナリト称ス

常念寺小路 此処ニ高田宗常念寺ヲ建ルニ扱

テ名クルナリ

宝光院小路 此処ニ真言宗宝光院ヲ建ルニ扱

テ名アリ今俗宝光坊小路ト称ス

寺小路 此処ニ慶聚院観音寺及称讚庵ノ三刹

アリ故ニ名ク

観音小路 此処ニ繼松寺観音ニ詣スル路ナルカ

故ニ此称アリ



職人町 此処三町ノ條アリ繼松寺ヨリ法久寺  
ニ至ル間ヲ上職人町ト称ス法久寺ヨリ清岩  
寺ニイタル間ヲ中職人町ト称ス清光寺ヨリ  
鍛冶町ニ至ル間ヲ下職人町ト称ス中職人町  
ヲ旧昔ハ吳器屋町ト称セリ

日野町 天正十六年近江州日野谷ヨリ角屋源  
右衛門衣屋與兵衛者ノ先祖來住ノ其後疊表  
蚊懈等ヲ江州ヨリ運ノ商フ民多シ故ニ日野  
町ト称ス蒲生氏宰知ノ時ノ所置ナリ

鍛冶町 天正十六年松ヶ島ヨリ移ス往昔御陣  
役ヲ勤ルニヨリ町役ナシ鍛エアリ高橋次郎  
左衛門七左衛門同傳兵衛三代又横山次右衛

門同善兵衛同定七ニ至リ三代西村仁兵衛同  
七左衛門同惣左衛門同惣右衛門同庄介ニイ  
タリ五代相繼メ三家ノ鍛冶アリ傳兵衛定七  
二家ハ断絶ス故ニ鍛冶町ノ称アリ又鎧鍛冶  
佐兵衛者一志郡森ヨリ往昔松ヶ嶋ニ來リ居  
メ鎧ヲ鍛練ス天正十六年當府ニ移住ス同職  
ノ者多シ其二代次郎兵衛三代治郎兵衛四代  
次郎左衛門名匠ナリ勢州松坂住高橋次郎左  
衛門尉藤原友清ト銘ヲ彫ス五代七左衛門ヨ  
リ農具ヲ專ラトス七代傳兵衛ニイタリ断絶  
ス又刀鍛冶左次兵衛者アリ其先ハ美濃州関  
ヨリ來住ノ勢州松坂住兼房ト彫ス鎗ヲ鍛メ



國君ニ献ス其後子孫ニイタリ此業ヲ廢ス  
矢川町 矢川町廻リノ地貢ニメ民家ハ日野町  
ニ屬セリ旧ト矢川村ノ地ニメ後ニ町名トス  
天正十六年江州日野谷ヨリ來住ノ庶民旧郷  
ノ菜ヲ齋ノ此町ノ裏白田ニ種子ヲ栽ル今ニ  
イタリ繁蕪ノ方俗日野菜ト称ス香味日野ニ  
所産ニ勝リテ冬日ノ賞トス又此処ニ往昔遊  
娼アリ傾城屋次兵衛者本州ノ田中傾城屋ノ  
長タルヘキト国司北畠家ヨリ免許アリシ由  
ヲ称シ傳ヘリ其時ヨリ相繼テ元禄三年十二  
月火災ニ罹リテ後断滅シ其餘流今駿河州府  
中ニ存セリト云國花万葉記ニ所謂藪ノ下傾

城町ト称スモ此地ノナリトス風俗文選許  
六季由カ南行記曰矢川ト云ハリノ地交  
有テ今々印口津邊ト名ノト記セルモ此  
形勢ナリ又炭俵俳諧集曰  
松坂ヤ矢河ハモ以テ裏面リ  
吹ルハ人もつらに暖乃秋  
ト賞スルモ此時傀儡女街ノ風流ナルヘシ又  
同処遍照寺十王堂境内ニ芭蕉碑アリ銘文韓  
天壽書  
たきてて七言の音色ハ  
下職人町 上件ニ辨スルカ如シ天正十六年松  
ヶ島ヨリ移ス処ナリ



湊町 天正十六年度會郡大湊ヨリ角屋七郎次  
郎茶屋市兵衛者來住セリ其餘家未詳故ニ名  
ク屋稱角屋松本七郎次郎法名江齊天正三年  
東照神君遠州濱松城ニ御在城ノ時小田原北  
條氏政ニ戮カニ拠リ駿州ニ武田勝頼ノ砦ヲ  
置クカ故ニ陸地ノ通路不便ニヨリテ七郎次  
郎海船ニテ通辭ヲ達シ同十年六月二日京都  
本能寺ニノ織田信長生害ノ時 神君泉州堺  
津ヨリ伊賀路ヲ歷本州神戸ニ到リ玉フ急卒  
ニ命セラレテ同郡若松浦ヨリ御舟ヲ發シ尾  
州常滑浦ニテ供奉ス其前小田原陣ノ通辭又  
此時ノ忠賞 御感アリテ四百斛ノ海船御分

國中諸湊往來出入役以下之者役所令免許不  
可有違背旨 御朱印天正十年八月頂戴ス又  
天正十二年小牧御陣役ノ時此朱印舟御陣船  
ニ供奉ス又慶長五年關原役ノ時七郎次郎江  
齋二代七郎次郎法名淨令父子供奉ス同六年  
伏見城ニ於テ奉謁シ小笠原越中守ニ令シテ  
諸州諸浦山中陸役等以下免除ノ奉書同九月  
十一日ニ賜ルニ一代七郎次郎法名江野御朱  
印頂戴中絶ニ拠テ三代將軍 日光御社叅ノ  
時御朱印頂戴ス宝永年中角谷ト改ム四代七  
郎次郎法名自休五代七郎次郎法名孝雲ヨリ  
今ニイタリ相續セリ



白粉町 天正十六年松ヶ島ヨリ移ス往昔白粉  
ヲ商フ者二戸アリ今ハ絶廢ス故ニ名ク

萱町 萱町廻リ年貢地ニメ民屋ハ湊町ニ屬ス

惣ノ茅屋所聚ノ処ヲカヤ町ト稱ス本州田丸

城府及神戸等ニ同名アリ今ハ河井町ヲカヤ

町ト訛稱ノ此地ノ名ハ絶タリ

櫛屋町 天正十六年松ヶ嶋ヨリ移ス往昔ハ櫛

ヲ造ル工住セリ故ニ名ツク其時夫ハ櫛ヲ製

シ婦人ハ笠ヲ編シト傳ヘリ今ハ其工住スル

ハ絶タリ

塩屋町 塩屋町廻リ年貢地ニメ民家ハ湊町ニ

屬セリ往昔食塩ヲ鬻ク者住セシカ故ノ名ナ

ルヘシ未詳

油屋町 油屋町廻リ年貢地ニシテ民家湊町ニ

屬セリ往昔ハ府城ノ半ハ矢川村ト稱セリ高

千三百石余ノ郷ニアリシニ天正年中今ノコ

トク坊鄺トナリ矢河ハ名ノミ遺リテ無里ニ

ナレリ農民五六戸此町ニ住シ残り高三百六

十一石一斗八升一合ヲ所帶メ在町ニ支配ニ

泓ニ屬セリ

平生町 天正十六年同郡平生ヨリウツス故ニ

名ツク往昔ハ此処ニ旅食店多シ宝永二年諸

州ヨリ大神宮ニ詣スル俗ニ御蔭詣ト稱スル

トキ同五月十四日此地ニ聚リ宿ス旅客四千



七十五人又享保十四年九月三日内宮遷宮ニ  
拠テ前夜止宿スル旅客五千有餘人同九月六  
日外宮遷宮前夜止宿ノ旅人三千六十八人ト  
旧記ニ載セタリ當今ハ此ヲ轉ノ河井町ニ旅  
食貨店多シ

愛宕町 愛宕町廻リ年貢地ニノ民屋湊町ニ属  
セル愛宕神祠此傍ニ建ルカ故ニ名称セリ此  
地ニ神樂坂ト称スアリ往昔ハ此処ノ地ニ高  
低アリテ愛宕ノ社前ナレハ神樂坂ノ名アリ  
今ハ坊廓ニ續キテ平地トナレリ故ニ此称ヲ  
失フニ至ル

垣鼻町 垣鼻町廻リ年貢地ニシテ民屋湊町ニ

属セリ往昔垣鼻村ノ農家ヲコ、ニ移ノ家造  
セリ故ニ名ツク

門前町 挽木町

門前町ハ愛宕龍泉寺ノ境内垣鼻岸江村入組  
ノ年貢地ニノ民家湊町ニ属セリ一名清滝町  
トモ称ス正徳四年愛宕社前ニ家造ス山城州  
愛宕山ニ拠テ清滝ノ地アリ故名ツク新町ハ  
又西岸江ノ年貢地ニシテ湊町ニ属セリ享保  
八年新夕ニ民居ス又挽木町ノ名称ハ此トコ  
コノ東南ニ茶磨塚ト称スル圓丘アリ形ナ茶  
臼ニ似タリ古田氏城主ノ時コノ丘ヲ築キ道  
遥ノ地トス故ニ茶臼ノ名ニ應ニテ其町ヲ挽



木ト称スルナリ

新町 日野町ヨリ西ニ横ニ至ル紀州及ヒ和州  
等ノ街道ナリ天正十六年松ケ嶋ヨリウツス  
日野町ノ西新町ノ口ニ紀州街道ノ石標ヲ建  
テリ

櫻屋町 天正十六年松ケ嶋ヨリウツス此町ノ  
構ノ封疆ニ山神ヲ祀ル壇アリ櫻樹成長シテ  
道路ヲ蓋覆ス其樹老テ枯幹トナル當処ノ住  
近藤三八者此町ノ称ハコノ樹ノ所有ナレハ  
ソノ樹ノ失タルヲ患ヒテ又植継タリ又近世  
マテ櫻屋某ト云民屋アリ若クハ天正中松ケ  
嶋ヨリ近シタル旧家ナルヘシ此ニ説ニ拠テ

櫻屋町ノ名称トス本拠トス或曰櫻樹ノ所存  
ニメ名クハ櫻木町ト謂ヘシ櫻屋ト称スル故  
ハ非ヘカラス今松ケ嶋田圃ノ字ニ梅屋町ト  
称スル処アリテ櫻屋町トハ謂ナシ疑ラクハ  
梅ヲ轉訛ノ櫻ニ称セシナルヘシ或曰此封疆  
ニ所祀ノ山神ノ祠ハ他ノ神ト異ニメ櫻木神  
ト称ス大和州ニ櫻木明神ト名ク社アリ其神  
ヲ勧請セシナラン其徴ヲ不得後号其神祠ノ  
條ニ詳ニセリ

黒田町 黒田町廻リノ年貢地ニシテ民家ハ新  
町ニ属セリ旧ハ同郡大黒田ノ地ナルカユヘ  
ニコノ称アリソノ町ノ西ニ至テハ黒田ニ属



セリ

大工町 旧ト古田家城宰ノ時鉄炮組足輕屋敷  
址ナリ享保二年ヨリ民居多クナル

小人町 旧ト古田家小人屋敷ノ址ナリ大黒田  
ニ屬ノ坊間ノ支配スル処ニ非ス

寡町 旧ト洗光寺ノ境内ナリ元禄三年十二月

七日清光寺火災ニ罹リ同四年今ノ境内寡町  
ニ移轉ノ再建ス故ニ又寺跡ヲ旧名ノ寡町ト  
称ノ其名ヲ復セリ

河原ノ町 旧ト阪内川ノ水防ノ堤ノ原ニ家造  
シ隣比ノ坊間ニ屬ノ魚町本町入組ニ附屬セ  
リ故ニ河原町ノ名称ナリ

高麗町 西廓外五曲村ノ内ニテ高十一石一升

五合同地町廻リ河原ニテ高四斗四升八合寛

文七年ヨリ御用地ニナリ樹木ヲ栽ラル其旧

名ヲ高麗町ト称スルハ服部采女正高麗人ヲ

扶持ノ此地ニ所居置ルニ拠シリ後其人内五

曲村ニ居ノ農民トナル其裔三右衛門者宝曆

中ニ至リ居ス町廻リ及坊間ニ非ストイヘ凡

町ノ名ヲ冒スカ故ニ今者廢セルナレ凡此ニ

載ス旧名ヲ遺セリ惣ノ町廻リ地ト称スル

ハ町ノ外廻ノ謂ニメ天正十六年黒田垣鼻矢

川西庄此四村ノ間ニ松ヶ嶋ヲ移シ松坂ト名

ツク町外ノ餘地高二百石餘ヲ町中ノ茶園ニ



附セラル是ヲ町廻リ本田畠ト称ス其旧ノ坊  
間ハ東ハ平生町ヲ限り南ハ櫻屋町ヲカキリ  
北ハ西ノ庄町限り今ノ西町ナリ各封疆ヲ築  
キ門闥ヲ建溝渠ヲ掘リ橋ヲ架メ郭内ノ構ヲ  
ナス愛宕町黒田町矢川町油屋町塩屋町萱町  
莚屋町寡町ハ坊間ノ商民ノ控ヘ地ニメ後ニ  
イタリ家造ヲナシ稍ク町役ヲ勤ム地貢ハ不  
収メ是ヲ町廻リ畠ト称ス新規町新座町瓦町  
鉄炮町ハ古田家士ノ宅址是ヲ侍屋敷新畑ト  
称ス松坂城郭内諸士屋敷址ヲ御堀内新畑ト  
称ス坂内川原モ町廻ノ郭ニメ各寛永十五年  
高檢地アリテ地貢ヲ收ム兼應三年又再檢地アリ

リ田畠ノ事ニ扱シハ岸江ヲ大里正ノ掌スル  
処ナリ  
町廻地高三百六石五斗八升二合  
内二百七石九斗八升二合  
四十六石八升  
四十二石九斗五升八合  
三石四斗六升六合  
六石九升一合  
外ニ六石  
右貢米百八十八石三升七合二勺  
御厨牛頭天王祠 博勞町ノ西ニアリ坂内川ノ  
岸ニ建 社家傳云當社ハ飯高郡平生ハ伊勢



内宮ノ御厨処ニ奉祀神ニテ食氣薰リ満ル所  
ノ神灵ヲ指メ薰氣神社ト称シ素盞鳥尊ト同  
神ナリ上古ハ平生ハ参宮ノ駄路ナリシニ  
テ勅使参向ノ時何レ此厨ニ止館アリテ旅  
途ノ幸ヲ祈玉ヘリト傳ヘテ今モ旅立ニ當社  
ニ拜詣ス右御厨廢絶ニ終ニ遺ル神垣ヲ天正  
年中松坂ニ遷シ道路ハ大手町通伊豆藏某ノ  
後社地ハ本町津嶋屋彦市カ裏ナリシヲ此社  
地然ヘカラストテ坂内河ノ辺今ノ社地ニ郡  
宰長野九左衛門尉移轉セラル元文元年十一  
月十六日回禄ス寛保二年九月廿八日新造メ  
迁社アリ神主一代高谷若大夫二代同若挾

宗茂三代若大夫元禄八年吉田總官ト部兼連  
烏帽子狩衣ノ裁許アリ

善覚寺旧址 表門ハ大手町ニアリ門徒宗東都  
麻布善福寺ノ末ナリ寛文八年穢人ノ檀那多  
キニ拠テ黒田村ノ地ニ更テ移ス其旧址也

正圓寺 矢下町ニアリ 高田宗一身田專修寺  
末ナリ天正十六年教圓法師松ヶ嶋ヨリ移ス  
旧ハ一志郡矢下谷之道場タリ故ニ矢下堂ト  
称ス矢下町ト称スルモ此謂ナリ延宝八年火  
滅ス元禄九年第三世住持教住院台吊法師再  
建セリ

明星山密藏院 城坊小路ニアリ 真言古義宗



旧ハ大倭州長谷寺ノ末利今ハ度會郡宮古田  
宮寺ニ属セリ元禄元年春清法師開基スコノ  
刹ハ當城ノ良位鬼門ヲ司トレリ故ニ前城主  
ヨリ修法ヲ執行セラル元文元年十一月十六  
日御厨天王ト同時ノ火ニ罹シリ後ニ再建十  
リ此院所有一批テ府城ノ祈禱所ノ坊院ナル  
ヲ以テ城坊ノ名称アリ

善縁寺 同処ニアリ 高田宗一身田專修寺末  
慶長九年淨心法師開創セリ旧トハ梅香庵ト  
号ス元禄元年ヨリ善縁寺上革名ス元文元年  
十一月十六日火ニ罹テ滅ス其後再建ノ今ニ  
存セリ

惣安寺 傳勞所ニアリ 旧ハ當町ノ會合処ニ  
シテ開基未詳元禄七年ヨリ清光寺末刹トナ  
ル住僧淳信法師本尊地藏ヲ安置ス宝永四年  
本堂再建ス元文元年十一月十六日火ニ罹リ  
テ後再建未夕全キトナシ

常念寺 常念寺小路ニアリ 高田宗一身田專  
修寺末ナリ中興真惠法師開基天正十七年松  
ヶ嶋ヨリ移ス兼應元年本堂再建宝永四年專  
修寺門跡勝宮御参宮ノ片當寺ニ成セラル境  
内増附シ永代本寺ノ通所ト定ノラル本堂破  
壊ニ批テ宝曆五年第六世住興隆院良演法師  
修造ヲ企同六年十一月事畢サルニ遷化ス同



九年四月第七世光雲院惠廊落成ノ功ヲ畢テ  
入佛供養ヲ執行セリ

宝光寺 同処宝光院小路ニアリ 東方山ト號

ス真言宗繼松寺ノ末ナリ天正十六年永賢法

師松ヶ島ヨリ移ス旧寺ナリ

大亀山慶聚院 寺小路ニアリ今方俗慶聚院小

路ト稱ス 禪宗安濃津竜津寺末ナリ開山元

明禪師天正十六年松ヶ嶋ヨリ此地ニ移ス

能救山觀音寺 同処ニアリ 禪宗當府養泉寺

末ナリ天正十七年通徳法師松ヶ嶋ヨリ移ス

稱讚庵 同処ニアリ 淨土宗當府清光寺末ナ

リ天正十七年松ヶ島ヨリ移ス旧ハ禪宗ナリ

寛永十六年ヨリ清光寺ニ屬ノ今ノ宗トナル

因寺山繼松寺如意輪院 中町觀音小路ニアリ

古義真言宗高野山蓮華三昧院末刹ナリ本尊

如意輪觀世音 本堂西向四間半四間每二月

初午近郡ノ詣人羣メ二十五歳及四十二歳厄

ヲ祈ル雜記所載云聖武天皇勅ニ拠テ天平勝

宝元己丑年八月十一日建立之玉ノ本尊如意

輪觀音御長三尺二寸餘ノ立像ニテ坐ス往昔

度會郡二見郷海人三津五郎左衛門正信ト云

者アリ江海ニ漁リ身命ヲ養ヒカヒ斯淺猿キ

殺生ヲ業トシケル後來ノ惡果ヲ十ヶキ急キ

心ヲ寢ノ常ニ觀音ノ佛名ヲ憶念メ毎日兩宮



ニ参詣シケル一時立石ノ海濱ヲ徘徊シケル  
折節光明赫々タル佛像波ニ浮ヒ流来ル磯近  
クナル儘ニ採上奉リ幽栖ニ安置シ弥信心倡  
仰セリ其後一夜老人来リ語テ云是ヨリ坤方  
ニ石津郷思寺山ト云灵地アリ古佛說法ノ道  
場夕リ然レ凡旧夕俗縁ヲ失ヘリ神明日夜ニ  
影向ノ処ニテ三神ヲ鎮奉リ大歳神大山祇命  
豊玉姬命是ナリ我ハ是弁財天女ト云畢テ不  
見則告ニ任セテ此处ニ移奉リ彼辨財天ヲ當  
寺ノ鎮守トス星霜ヲ經テ後繼松法師トテ受  
戒真言ノ僧アリ朝暮勤行不怠尊敬巖重ナリ  
ニ故菩薩ノ誓モ世ニ弘ク利生モ新ニナル故

ニ寺ヲ繼松寺ト号又如意輪院ト名ク此法師  
ハ三津正信ノ化現ト謂ヘリ山号モ本ハ思寺  
山ト云シカ凡正應五年八月十八日江州北郡  
伊曾野人ニ岡山右京允行武ト云人アリテ當  
國万民ノ助カラ催シ觀音堂大日堂護摩堂並  
山門鎮守七神ノ神籬悉ク再興シケル故ニ中  
興建立ノ願主岡山ノ一字ヲ取テ岡寺ト云  
ニナリケル今ノ堂社ハ葦田佐右衛門佐宣貞  
造立ス或云岡寺ノ称ヲ詳ニスルニ大和州  
高市郡岡村東光山竜蓋寺アリ本尊觀世音菩  
薩西國七番札処ナリ岡寺ト俗称ス即舒明天  
皇岡本宮ノ旧地ニメ逝<sup>ニキ</sup>回岡ト古称スル処ナ



リ此ニ觀世音ヲ安置スルニ同ク此岡寺ノ名  
ニ比スルナルヘシ凡云 繼松寺傳記云天竺  
捷陀羅因王后勝鬘夫人常信觀世音祈請或時  
夢中誓文驚拜美童兩体來而此尊像令作得且  
語曰大日本國后光明可返得於是夫人益成感  
歎痛敬蓋彼兩童子者伊勢春日兩大神之妾体  
其後傳來而光明皇后朝暮枕信偈仰聖武天皇  
天平年中南都東大寺御建立之砌勅行基勢州  
飯高郡石津鄉當寺有御建立号如意輪院安置  
此尊像天平勝宝年秋大風洪水堂舎本尊海中  
流了爰當國二見浦三津五郎右衛門正信者常  
憶念觀世音加之每日參詣天照大神當天平勝

宝二年八月廿一日如恒例竭兩宮次ニ竭御塩  
殿立石真玉神祠畢而自濱辺歸時巨浪一堆衝  
岸而來忽自浪中佛像浮出正信驚悟而攝取則  
者乃如意輪觀音也既而持佛安置屋中信心偈  
仰然或夜光明滿屋驚見老翁忽然而現乃語正  
信曰從是丁坤有如意輪觀音之灵場雖今院宇  
殆廢尚天照大神晨昏降臨之灵境也言訖乃不  
見於是正信感歎銘肝遂葺洙号繼松法師建立  
堂宇暫住此寺而後不知其所往因号繼松寺此  
正信正塩土翁神之化現也云云天平勝宝三年  
辛卯二月上旬孝謙天皇御宇御厄攘災之旨祈  
給依之厄攘之佛當寺厄攘杉葉用事弘仁九戊



戊午四月七日午刻當寺炎上之時本尊自火中  
出門前大杉木座又住持實惠手杉葉持消却彼  
火之上又寬平四年壬子六月十一日有人為敵  
被駟遂隱彼大杉木于時杉木自枝隱覆彼人敵  
苦尋覓不見空歸去蓋此人于時四十二歲也治  
兼元丁酉年八月十八日在宣下義楚御建立寬  
元年中鎌倉執權時頼公御營造正應五年八月  
十一日函山右京允行武依佛勅建立天正年中  
住持正林坊政筭從石津郷當地引慶長十七壬  
子年十二月廿三日古田大膳大夫殿御母義方  
七七殿為御願主御建立奥之御戸帳錦織葵御  
紋附口之御戸帳唐織右從紀府御寄附享保十

巳年五月十四日境内殺生禁札被為下置云云

彌勒山竜華寺

禪宗同府養泉寺ノ末天正十六

年靈鈞法師松ヶ嶋ヨリ移ス古田兵部少輔香

華所同墓アリ五輪ノ塔婆長三尺五寸銘曰前

兵部少輔天閑道雲居士慶長十一丙午年六月

十六日卜左右ニ鑄ス又正保年中佛舍利安置

ス毎歳四月八日郷人羣詣ス方俗舍利堂卜稱

惠日山法久寺

法華宗伊豆州玉沢妙法華寺ノ

末利ナリ京師本法寺日觀上人草創文祿三年

甲午月日源大德再建享保十四酉年住持日秀

修營ス本寺ヨリ廢賞ノ永代聖人跡ヲ免許ス

小堂再建延享元年三月入佛供養ヲ執セリ



國君南奄院殿及御母養珠院殿尊儀ヲ安ス  
奄松山養泉寺 禪曹洞宗安濃津四天王寺末  
寺傳云開山實山禪真和尚ハ相州産兵乱ニ拠  
テ離郷行脚ニ伊勢大神宮ニ詣スルノ片松ノ  
島ニ止宿ス其家主ニ語云昔是行脚之僧也此  
邊ニ若有棲息之地可留錫主云當郷有古寺謂  
養泉寺此寺年代深遠堂宇幾飽風霜今幸無住  
也遂相約令住持其後蒲生飛彈守殿移城廓於  
松坂寺右隨之弟子與虛鈞戮力建立殿堂厨庫  
門廡其唱尤昌也禪真和尚一日語衆曰我在本  
國本山一會任之時一相感灵夢明日對衆說之  
其語未了蒙宝祚長久祈願之勅許重而賜絹布

之僧伽梨及紫衣勅持永禪師之号我終身頂戴  
奉持紫衣者留旧居之本寺賜号上其牌面僧伽  
梨者到今存在當寺住職已三十餘年慶長七寅  
年八月十日壽九十三迁化畢

金生山弥勒院 真言宗古儀沁山城州醍醐報恩  
院末ナリ 當寺傳記曰行基菩薩之草創退轉  
之後草堂本尊弥勒佛安置ス宝龜三年勤操和  
尚七間四面堂建立右境内午頭天王社森田豊  
前守政直貞觀十二庚寅年奉勅山城国祇園社  
諸国七社勸請是其一也天正十六子年二月十  
九日從松ノ嶋當町迁社享保十四酉年二月十  
九日類火社堂燒失住持英翁産子戮力内宮西



宝殿古材用乞之其終建同十六亥年二月十九日  
遷社弥勒堂ハ後住英莫建立延享元年子年三月入佛供養  
大師堂ハ英莫建立寛延二巳年三月入佛供養

願證寺 高田宗一身田專修寺末 旧ハ西本願寺  
本州素名願證寺ノ掛処ノ坊ナリ 寺傳云親鸞聖人ヨリ  
八代蓮如上人當国長島願證寺ヲ開創ス蓮如上人ヨリ  
四代證惠上人江州日野願證寺ヲ開基ス日野願證寺ノ  
二代證鎮天正十八寅年願證寺ヲ松坂ニ遷之假堂ヲ營  
之證惠ヲノ開基トス古田兵部少輔城主ノ時懇志不淺  
家士ノ輩ヲ檀那ニ附ラルル二世古田

大膳大夫城修造ノ片旧材ヲ用テ慶長十二未年庫裏方丈ヲ造ラル元和年中又助力ヲ以本堂建立ス後古田氏石見國濱田ニ得替ニ因テ遲延ニ及ヒ寛永二丑年落成ノ功畢テ彼檀家ナシ長野九九衛門尉役所ニ訴ヘ寛文巳年二月十六日五曲領川端新堂宇焼亡ス正徳五未年本寺素名願證寺住侶璞尊高田宗ニ改泓ス松坂ノ門葉ノ徒他州ニ分散シケル故ニ寺蹟專修寺ニ附ス什物紅葉御影專修寺門主大僧正圓歎書改メラル旧トノ本願寺ノ裏書アリ左ノ如シ

明應十年辛酉正月廿八日



大谷本願寺親鸞聖人御影 釋實如判

勢州桑名庄香取郷

杉江願證寺常什物也

此御影旧損之間所奉修覆也依證惠怖望以先  
年之筆跡殘鉗今之裏訖

天文八歳己亥閏六月廿八日書之 釈證如判

紅葉御影此尊像者

高祖親鸞聖人礼盤三牖之御影及西上人被加  
御筆希有之良宝冠一宗嘗奉掛長島紅葉御殿  
衆人之崇敬年久仍号紅葉御影猶更可有偈仰  
也

天文廿三甲寅三月廿八日 釈證惠

今紀川領主ヨリ一及三畝御免地アリ

光明山遍照寺 矢川ニアリ 天台律宗當府來

迎寺末明曆ニ申年盛覺法師十王堂建營ス元

禄元年新造ノ寺院修覆ニイタリ制禁ニ因テ

三世念心法師元文四年度會郡山神村ヨリ古

蹟ノ觀音堂ヲ移建ス延享四年今ノ遍照寺ト

革號セリ

本覺寺 下職人所ニアリ 高田宗一身田專修

寺末ナリ文禄元壬辰年住僧專隆坊松ヶ嶋ヨ

リ此地ニ移迁ス元禄三年二月七日本堂焼亡

同十四年第二世念称院教壽法師本堂再建ス

三縁山信阿院清光寺 同処ニアリ 浄土宗

清光寺



京洛知恩院末寺 寺傳紀曰田原當山神光寺  
ノ草創ハ行基菩薩ノ開基ニシテ中葉真言ノ  
僧是ニ居セリ堂ハ不動明王ノ尊像ヲ安置ノ  
諸人偈仰ノ靈場ナリ故ニ護魔檀ノ具今ニ存  
セルナリ昔西行法師當國行脚ノトキ此寺ニ  
寄セテ詠スル和歌

いせのつらやる津の浦よすはふかきし一貝よも拾ひつらん

えかろりなる杉のひまもと足波せをたぐひよるじあはれをい

夫佛道ハ因縁機熟ヲ以家トスルヲナレハ時  
ニ依テ住持區々ナリ保延久安ノ比ハ真言秘  
密ノ奥旨ヲ修シ元享建武比ヨリハ教外別傳  
ノ祖意ヲアルス然リトイヘ凡堂舎薨破シ寺門

靡落テ修理ヲ假ルニ由ナシ嗚呼時ナル哉後  
柏原院御宇大永三癸未年吾宗ノ学匠寮道和  
尚智法兼備ノ道俗帰依セリ因之 官命ヲ蒙  
リ浄土宗門ニ轉成シ神光寺ノ号ヲ改メテ三  
縁山無量覺院清光寺ト名ク弥陀如来ノ尊像  
ヲ安置シ奉リ專浄土ノ家風ヲ弘メ絶タルヲ  
繼廢タルヲ興シ室坊修造事新ニ成シリ於于  
今寮道和尚ヲ以閑山上人ト仰ク所以ナリ蓋  
當寺ハ織田信長公ノ家臣津川玄蕃允菩提所  
ナリ其後蒲生飛彈守氏郷並家臣蒲生源左衛  
門尉野主水佐河北平左衛門尉直理ハ右衛  
門尉外池甚五右衛門尉以下ノ家士當寺ノ祖



越ナルカ故ニ松ケ島領主寺社多シトイヘ  
諸家ノ菩提所タルニ因テ格式諸宗ノ第一夕  
リ然ルニ天正十六年戊子松ケ嶋城ヲ此古城  
ニ移サルニ属メ寺社在家尽ク此地ニ移リ来  
ル上古参宮ノ道路ハ三渡ヲ涉リテ十頭ニ至  
テ江奈津ニイタル然ルニ遷城ノ時ヨリ三渡  
ヲ渡メ直ニ松坂ニイタル今ノ参宮街道是十  
リ當山ヲ此地ニ引迂セル处其境内松ケ島ニ  
アルトキノ分内ヨリ甚狭ニ因テ中興開山虎  
斑和尚大守氏郷ニ訴ラレシニ速ニ許容アリ  
テ境内ノ外瓦町ニ於テ茶園ノ地ヲ賜フ然凡  
幾許モナク氏郷奥州會津ニ御國替アリ次テ

古田兵部少輔此地ヲ領セラル古田氏城主ノ  
時瓦町茶園ノ地足輕屋敷トナルニ拠テ其替  
地トシテ矢川町ニテ畠並藪下ニテ茶園ヲ附  
セラル觀音寺屋敷是ナリ道幅九尺四壁藪凡  
ニ一反其時ノ家老古田助左衛門尉町奉行馬  
場弥市郎猶先規ノ如ク免許ヲ蒙リ蒲生氏族  
ノ石塔武具今ニ當寺内ニアリ旧ヨリ在家ノ  
且那無数ニ拠テ堂舎莊嚴不全ノ处中興虎斑  
和尚智能容貌殊勝ナリシカハ諸人崇敬不斜  
寺門經營不日ニ成就シケル今上人ノ影像本  
堂ノ内ニ存在ス元和年中南紀國君ノ御領  
国トナリ御入府ノ時當寺由緒言上ス処境内



畠園氏ニ先規ノ如ク御免除又於當城寺社方  
始テ召ノ當山住持諸寺ノ席上ニ面謁シ明曆  
年中増上寺寄屋上人上洛ノ時参宮ノ節在任  
存了和尚法縁ニ因リ往来氏ニ當寺ニ止宿其  
時山号寺号氏ニ御訊ニ批テ當寺ニ縁山ノ号  
貴寺ニ對シ憚アリト世人常ニ訝ル今日幸別  
号ヲ并シ無窮ニ傳ント懇望スルニ尊宿曰遠  
慮一理アリトイヘ氏往昔ノ由緒刪シ難シ今  
更改ニ不及トテ大名号ヲ被書賜フ脇書ニ三  
縁山無量覺院清光寺ニ附与スト筆跡ヲ遺ナ  
レケルナリ且將軍家御代々神儀御拜礼ノ  
序御裡書ヲ加ヘラル右年号ハ燒亡ノ御位牌

ハ今ニ無恙守リ奉ル元禄三庚午年十二月七  
日夜在家失火當寺ニ及ヒ本堂塔頭一字モ不  
殘燒亡ス雖然本堂ニ安置セラル佛像等將  
軍家御代々尊牌南紀尊儀ノ御位牌等恙ナク  
守護ニ奉ヒリ現任某愚案ヲ回スニ當寺ノ境  
内四隣トモニ市鄣ニ接シ平生朝夕不謐丙丁  
ノ災厄歎ノ替地ヲ奉願御城代小笠原与左  
衛門町奉行後藤角兵衛不日ニ願ヲ許サルニ  
批テ元禄四年先此地ニ鎮守ヲ建立鎮地ノ処  
機熟シ時至リケルニヤ自他ノ檀那戮力材木  
ヲ送り土石ヲ運ヒ本堂十一間半厨舎並塔頭  
六坊移住如今成就ス此時山号寺号御尋ニ批



テ三縁山信阿院清光寺ト書付指出セリ然ル  
処現住某當寺火災灰燼ノ中ニ新地ヲヒラキ  
經界ヲ正シ堂宇造立ノ功事成ニ拠テ護法ノ  
且那呼テ中興開山ト称之某カ信阿ノ号ヲ以  
當山ノ院号トシ聊規模ヲ著サシテ乞フ此  
事輕ク許容シカクシ諸相那願乞フニ拠テ暫  
クコシニ從フ當寺由來大永年中ヨリ傳來セ  
ル縁起什物或ハ兵乱ノ夕ノニ彩矢之或ハ火  
災ノ為ニ滅却セリ此度堂宇成就セルニ因テ  
羊跡傳來斑々ニ書記ノ後代ノ廢志ニ備ル者  
也元禄七甲戌年霜月望日來蓮社大譽揚聊誌  
後記 柳十万人講濫觴ハ正徳三癸未ノ春ノ

此當寺廿三世善譽上人幡貞和尚夙願有之御  
長三尺ノ阿弥陀ノ尊像ヲ新ニ造立シ奉リ普  
ク諸人ニ勸ムニ日課百声ノ念佛ヲ受持セシ  
ノ名ソノ人名ヲ絹録ノ尊像ノ蓮臺ニ納メ亦  
灵ノ為ニ勤ル者ハ其所志ノ灵名ヲ記ノ人数  
トシ十萬ヨリ乃至無量ノ勝會ト成ラシメシ  
テ欲シ十萬人講ト名ツク且半帑一錢ノ投  
財ヲモ不許唯化益無窮ニメ入會ノ輩等ノ壹  
蓮ノ值遇ヲ願フ既ニ此由増上寺三十六世前  
大僧正祐天和尚ニ啓達セシ処ニ甚隨喜メ曰  
十萬人會念佛勸ハ稀有ノ勸化ナリ遐代ノ流  
通不過ノ義入會ノ上首トナリテ世上ノ四輩



ヲ誘引スヘシ又入衆ノ輩ハ悉ク一紙ノ名号  
ヲ授与セシテ欲ストイヘ凡世壽限アレハ  
執筆ノ功成難シ清光寺ニ附属ノ印施セシ  
ハ然シトテ十万人會ニ授与スルノ一句ヲ添  
ラレテ小字名号ヲ賜リ梓ニ彫テ大僧正ノ御  
在世ヨリ没後ノ今ニイタリ入會ノ輩ニ弘ク  
印施メ十万人講ヲ勸化ス機熟時イタリ此勝  
會東西ニ流布ノ我宗四箇本山並相林住職ノ  
能化モ入衆アル中ニ普明院法内親王  
林丘寺法内親王御入會有之御信仰不淺護法ノ  
御志深クコレニ因テ御翠簾並裏菊ノ御紋幕  
挑燈御寄附有之當寺什物トノ永代ニ相傳フ

猶又一字ノ堂ヲ建立シテ十万人講本尊並傳  
大士ノ像祐天大僧正ノ影像ヲ安置シ又一切  
經ヲ納奉ル且十万人講入衆ノ證トノ御筆ヲ  
添ラレ或ハ弥陀名号或ハ御院号ヲ賜ル奉納  
シ兼秋門院普明院宮法親王等ナリ此外  
花洛東武ノ貴族御入會アリトイヘ凡隱密ノ  
御沙汰故ニ顯ニ爰ニ記シ難シ凡十万人講入  
衆ノ貴族道俗五十万人ニ及ヘリ是誠ニ善譽  
上人希代ノ矣願ニ因テ普ク勝會ニ入り祐天  
大僧正廣大ノ徳沢ニ潤ヒ安ク利益ヲ得印施  
名号ノ感應靈驗等枚挙スルニ遑アラヌ世ニ  
流布ノ顯然ナリ是故十万人講ハ祐天大僧正



教王山來迎寺無量壽院 天台律宗真盛派 江

ノ慈恩ニ拠テ當時永代念佛弘通ノ規模トナ  
レルモノナリ  
茶湯料畑四反三畝十二步寄附アリ今領主ヨ  
リニ反ニ畝御免地アリ  
州坂本西教寺末 寺傳記曰教王山來迎寺者  
人皇百五代後柏原院ノ御宇永正年中勢州ノ  
刺史北畠權大納言材親卿建立ナリ其基址ハ  
丹後入道俊繼ト云人旧當州桑名ノ産ニテ曾  
祖ハ丹州刺史ナリシカ流落シテ桑名郡ニ屏  
ス俊繼其末葉ニメ丹後入道ト云壯年ニシテ  
双親ノ喪ニ遇テ故ニ有為ノ変易ヲ厭ヒ無為

ニ入テ親恩ヲ報セニテヲ要ス道志益深シ遂  
ニ出家シテ世榮ヲ逃ル比叡山横川惠心院ノ  
旧識ニ因テ幽居スルテ十五年時ニ止觀ノ法  
要ヲ信解シ山衆ニ隨身ス偶故園ノ親屬ヲ行  
化セニテヲ想ヒ錫ヲ勢馭ニ投ス入道昔武勇  
ニ德アリ材親卿其来錫ヲ聞テ招テ武談セニ  
テヲ乞フ俊繼以為ク武勇釣ヲ投ノ無ノ彼岸  
ニ誘ント便子細頸城ニ入り材親卿ニ見ユ其  
道容ヲ見ル更ニ賓客ノ礼ヲ致サル法談ノ餘  
戰場ニ望ミ死ヲ畏レサル工夫ヲ問俊繼荅曰  
我報本空ノ意ヲ悟シハ死生存亡ノ為ニ動搖  
セラレスト卿曰得テ修證スヘキヤ俊繼曰此



工夫甚カタシ君既ニ死ヲ問フ是畏ルハカ故  
ナリ古人謂フアリ血氣ノ類ハ智愚トナク  
大小トナク生ラ愛之死ラ惡マサルハナシ茲  
ニ知<sup>ル</sup>殺罰ノ必ス報アリテ世々遠孫ニ及ブ  
テ卿曰報何ヲ以カ消<sup>レ</sup>之俊繼曰三宝供養ノ  
道場ヲ建テ戦死ノ者ヲ吊ヒ戰場ノ罪ヲ懺悔  
セニハ然シト時ニ永正八年辛未其城南細  
頭ニ於テ殿堂ヲ建ラシニ三寒暑ヲ經テ落城  
ス古老傳テ曰此世々古戰場ナリ且風景アリ  
テ佛場ノ基地ニ好シト其時節比叡山西教寺  
中與真盛上人ハ特佛念佛ノ高德ナルニヨリ  
明應年中後土御門院清涼殿ニ召メ回頭戒ヲ

受玉ヒ後柏原院モ亦佛名ヲ受玉ヒ叡信特ニ  
深カリシ故一時ノ公卿感敬セリ明應二年當  
州ノ行化ニ向ヒ材親卿ヲ諫テ兵火ノ災ヲ止  
シメ数々道法ヲ示サル其後上人伊賀州ヲ化  
メ醫王山西蓮寺ニ入テ寂ス材親卿勸懲<sup>メ</sup>受  
テヨリ後等ク真盛ノ德ヲ慕ヒ從弟ノ上足盛  
品法師ヲ延請ノ結界ノ武ヲ展サセラル緇徒  
若干隨ヒ入テ不断念佛ノ規ヲ立ツ法音幽顯  
聽ヲ聳ハ遠近貴賤法筵ニ詣スルモノ幾許ト  
云<sup>レ</sup>ヲ不知寺号ヲ教王山真盛堂來迎精舎ト  
号ス始祖盛品則今上皇帝ノ壽牌ヲ建テ室  
曆<sup>歴</sup>永長ノ課誦ヲ勤ム材親卿食邑ノ地五十石



ヲ附シ慕下ノ士卒ニ俱ニ僧供ノ資ヲ納ムル  
于時鐘樓寮舎門廡皆成就ス郷則殺生禁断及  
寺式ヲ樹シム開基ノ願主俊繼入道志之西迈  
ヲ決シ縣ノ惣神社北天王祠及弥勒堂前ニ詣  
シ増進菩提ヲ祈ルヲ七昼夜満晨夢ミラク一  
道ノ白雲西方ヨリ庭松ニ鬢鬣ト遅明ニ覺テ  
見ルニ神前一巻軸ヲ得夕リ拜披スルニ弥陀  
ノ名号也傍ニ真盛上人ノ諱アリ後俊繼感心  
ノ思ヘラク開基宗派ノ符之上人ノ感應益々  
尊シ我カ住詣西方ノ願決定セリト深ク是ヲ  
信メ巻軸ヲ來迎精舎ニ納メ寺ノ至宝トセリ  
俊繼一時ニ旅行ニ赴ク終ニソノ止ル処ヲ不

寺僧僉云無為ノ道人ナリト永正十四丁丑年  
第二世盛運法師寺ヲ嗣ク此年十二月十三日  
材親御逝ス淨眼院殿無外逸方大居士ト号ス  
牌面ヲ立テ僧侶相會シ大乘妙典ヲ諷シ中陰  
ノ式ヲ勤メ高施ノ思ヲ謝ス人皇百七代正親  
町院御宇国司北畠三位中将具教郷永禄七年  
甲子二月若干ノ檀物ヲ當寺ニ寄附シ同十年  
丁卯六月六日重テ當寺ニ就テ制断ノ翰ヲ賜  
ヒ五箇ノ違犯ヲ禁止ノ永規トナサシム天正  
四丙子年十一月廿五日具教御逝ス壽四十九  
歳寂光院殿心祖不智大居士ト号ス尊牌ヲ立  
テ讀經ノ會ヲ設ケ以テ檀施ノ思ヲ酬フ當寺



三世勝慶法師詳ニコレヲ記シ置リ後天正十  
六戊子年松ヶ島ヨリ城ヲ移サル時佛殿及寮  
舎六坊鐘樓門廡等松坂ノ地ニ曳移ス土木費  
用等細頸ノ祖家精誠ヲ竭メ是ヲ資ク境地ハ  
大守蒲生飛彈守ヨリ賜ハル住侶勝慶法師數  
々戴星ノ功ヲ積テ日夜惘志ヲ抽再ヒ爰ニ構  
造シ畢ス右者慶安四年壬辰ノ天第十一世住  
持四海沙門自是ヲ記ノ後代ニ傳フ云云今  
詮スルニ享保元年十二月九日火ニ罹テ燒亡  
ス住僧真澄再火ヲ辟ニカ為ニ旧地ノ南位ニ  
地ヲ築キ同五年八月假堂ヲ造リ本尊ヲ遷シ  
安置ス後住止峰法師相越ノカヲ戮セテ本堂

建營ス同十六年三月十九日落成又同年境内  
ニ元三大師堂ヲ建ス 塔頭 法性院 千如  
院 覺靜院 寂照院 五宇境内ニアリ今紀  
州領主ヨリ茶湯料畑一反二十步寄附セラレ  
天南寺 油屋町ニアリ 禪宗慶長十二年宥天  
法師開基旧ハ開眼寺ノ末沁元禄元年ヨリ同  
府養泉寺末ニ轉革セリ  
佛心山開眼寺 同処ニアリ 禪宗同府養泉寺  
ノ末開基慶長二年宗久禪師此処ハ旧ト葬路  
山ナリ由テ方俗山ノ藥師ト称ス故ニ當寺ノ  
境内ニ坊間民家ヲタツル今某師小路ト称ス  
雲照山信行寺 平生町ニアリ 浄土宗同府清



光寺ノ末ナリ元和三年傳周法師開基  
愛宕山竜泉寺上福院 愛宕町街道ノ傍ニアリ  
古義真言宗洛西大覚寺末 本社愛宕権現  
本堂 愛染堂 國司鎮守社 役行者堂 辨  
文天堂 及北畠教具ノ神儀ヲ安ス境内ニ古  
田織部正墓アリ 今紀州領主ヨリ八石四斗  
免除地アリ 寺傳記曰上古草創詳悉ナラス  
トイヘ凡尚應仁文明年中ニイタリ當国一志  
郡滝野川村ノ山中ニ弘法ノ開基ト謂傳フ伽  
藍アリケル愛宕社モ其地ノ鎮守タリ其北ニ  
多氣北畠家ノ領地ニテ古來勝區タル故ニ國  
司ノ信仰淺カラス寺領若干寄セ置ル年来ノ

祈願寺ナリト村翁ノ語ナリ蓋竜泉寺ハ一山  
ノ惣構ヘニテ惣号ナリ其内ニ僧房若干アリ  
ケル下ノ坊ト謂ハ當院ノ旧号ナリソノ餘ノ  
寺モ皆坊号ニメ中ノ坊上ノ坊等ノ名アリ旧  
蹟今ニ存ノ民家トナリ唯古昔ノ堂蹟ニ一寺  
遺シリ山門鐘樓ノ址ハ田畝ノ称トナリテ今  
ニ云傳フ多氣ノ御跡断絶ノ後ハ遠近皆戰場  
ノ砌ナレハコノ寺モ居住ニ難ノ処々ニ散漫  
セリ下坊モ終ニ佛像等守リテ松ヶ嶋平生村  
ヘ退クコノ処ニ愛宕屋敷同門前田ト云傳ル  
処今ニアリ永祿十一年ノ比ナリ其後松ヶ島  
城松坂ニ移替ニ拠テ天正八年秋當寺前住良



宗上人邑士四郎右衛門者ヲ伴ヒ松坂ノ邸ニ  
テ建ニ処ヲ監々尋ケルニ今ノ境地從來荒涼  
ノ地ナレトモ形容スヘキ園アリ沢アリ松縁  
ニ泉清ノ四神相應ノ灵地ナルハシナト相語  
テ逍遙眺望シ夜陰ニ及ル頃ニ傍ナル松樹ノ  
下ニ憩シケルニ俄頃ニシテ野狐ニ足出来ル  
其処ニ遊戯シ火ヲ点シ衛リ居良久ノ陰去ル  
其場ニ幘一幅ヲ遺セリ奇ニ採テコレヲ看シ  
ハ乃飯繩権現ノ画像ナリ是佳瑞ナリトテ稻  
荷神小祠ヲ建テ地主ト崇メ厥后吉凶ノ事寔  
アレハ豫メ報シ知ラシムルヲ多シ天正九年  
春良宗入京メ勅許ヲ蒙リ口宣令旨ヲ奉リ帰

リ潮田長助又北尾殿大藪殿庵室殿ナト聞ヘ  
シ人々カラヲ戮セテ一字ヲ建立セシトナリ此  
トキ上福院ト号ヲ乞シナラン元和八年癸未  
八月古来ノ由緒 南竜院殿達 御聞寺領八  
石餘寄置セラル

右享保十巳年住持宥慶法師輯録スル処ノ  
要文ヲ撮テ記セリ  
傳來ノ古文書証文尤ノ如シ



勢陽五鈴遺響飯高郡卷之十

多氣北畠政具卿ノ時ニ賜フ旧案

一志郡中村上庄中坊供僧並坊領等之事

任滝野河下坊権律師忍尊時之御制旨御領常

不可有相違之由依仰執達如件

文明十一年七月廿五日 民部大輔

雅兼判

滝野河下坊

多氣北畠具教卿ノ時ニ賜フ旧案

當坊之吏人足傳馬棟別貫於一切新儀役之儀

御免許候由所也恐惶謹言



三月廿四日

房兼判

正親町院御倫旨

當時佛法興隆之事尤以神妙也弥可奉抽宝祚  
延長懇祈之由

天氣如此仍執達如件 左少辨為家判

天正九年三月廿五日

良宗上人御房

大覺寺宮令旨

今度當國上福院為愛宕推現勸請可有與隆由  
御案内被申入候尤神妙被思召候當院之事為  
御末寺之上者別而相應之儀不可有御踈畧之

旨大覺寺御氣色候也仍執達如件

密乘院

天正九年三月廿一日

堅海判

良宗上人

織田信雄卿寄附狀

以四目指郷内三十貫文令寄進訖全令寺納之  
狀如件 信雄朱印

天正十一年十月十五日

上福院

服部采女正寄附狀

愛宕山御城之為寄進畠方五反申付候野方之  
儀者御大覺次第御き一廿菜園被成可有御沙  
汰候恐惶謹言



天正十九年七月十三日

石黒茂右衛門

貞秀判

松坂愛宕山

長印 叅

古田兵部少輔寄附状

愛宕山江御城之為御寄進畠方五反不相替申  
付候其上野方之義者御丈覺次第御き一せ候  
てさ菌被成可有御沙汰候恐惶謹言

文祿四年九月廿日

馬場孫一判

松坂愛宕山

長印 叅

同寄附状

古田兵部様為御意西岸江村之内はろく垣  
内ふく永代三石埒き一人被成候拙子手長之  
内之義候間則百姓引付進申所實正也全御知  
行可被成者也仍如件

山本左馬之助

慶長七年五月朔日

正盛判

愛宕上福院 叅

元祿三年火罹り社堂焼亡住侶長尊元祿年  
中本社再建ス正徳年中後住宥慶客殿厨裏再  
建ス今詳ニスルニ寺傳ニ天正八年松ヶ島ヲ  
松坂ニウツスニ扱テ良宗上人今ノ愛宕神祠  
ノ境内ノ檢點スルトイフハ無誓ノ言ニ似リ



織田信雄田丸城炎焼ニ拠テ天正八年松ヶ島  
ニ移メ細頸城ト名ク又天正九年良宗上人蒙  
勅旨愛宕山勸請佛法與隆ノ令旨ヲ賜フ城  
主ヨリモ天正十一年寺領寄附状アリ又天正  
十六年松坂ニ城府ヲ移スニ拠テ天正十七八  
年ノ間愛宕神祠モ迁営スト謂フトキハ歷代  
次第ノ的説トスヘシ故ニ城府鎮護ノ社宇ト  
所謂モ宜ナルヘシ

周徳庵 同処ニアリ 慶長十乙巳年開造ス処  
ナリ旧ハ愛宕町會合寺ナリ境内ニ松樹生茂  
メ小高キ丘ニ神祠アリ醫道ノ祖神少名彦命  
ヲ祀レリ故ニ方俗某師寺凡稱ス又弁戈天ノ

祠アリ

梅松山菅相寺 同処西側ニアリ境内菅神席ア  
リ方俗天神森ト名ク 禪宗 寺傳記云天神  
祠ハ往昔此地ニ古塚アリ里人此ニ觸ル片ハ  
忽崇ヲナシ又ハ狂態ヲナスニ拠テ郡宰長野  
九九衛門尉聞テ自ラ鋤ヲ采テ穿始後人民聚  
リ堀盡ケレハ土中丈餘ノ底ヨリ宝劍一枚ヲ  
得タリ其劔ニ觸シ者ニ神託メ曰吾ハ是天滿  
天神ナリ汝等輕忽ニスルヲ勿レト衆人驚敬  
ノ終ニ宮殿ヲ創建シ天滿大自在天神ヲ勸請  
シ宝劍ヲ神体トシテ秘藏セリ當寺開基ノ年  
序ハ未詳正保四丁亥年再建ス旧ハ同府竜泉



寺ノ領ニ真言宗僧暫ク住セリ天和三癸亥  
年京洛妙心寺末東錫派度會郡山田中山寺雪  
潭和尚ノ法嗣復岩長老竜泉寺ヨリ譲ヲ得テ  
中山寺ヲ本寺トシ雪潭和尚ヲ開基トス二代  
復岩三代一牛宝永七庚寅年天神祠ヲ再建ス  
正徳二年ヨリ妙心寺末トナル四代柏禪觀音  
堂ヲ建立享保十八丑年三月入仏供養並本堂  
建立ス元文五年申四月開堂供養第五世梅翁  
禪師天神祠ヲ新ニ再建シ寛延四末年十一月  
二十五日遷社ノ執行アリ一説云天神ノ像  
ハ菅公ノ自彫ナリト云フ或云祭神少彦名命  
ナリトモイフコレ京洛五條天神ノ謂ニ拠シ

ルナルヘシ  
日天八王子祠 垣鼻町田圃ノ中ニアリ 垣鼻  
町生土神ニシテ里民コレヲ祀シリ日天ノ名  
義未詳菴藝郡白子領南黒田村ニモ日天八王  
子ト称ス祠アリ

法幡山樹敬寺宝延院 新町ニアリ 浄土宗京  
洛知恩院末利 寺傳云後鳥羽院御宇建久六  
年乙卯夏ノ首南都東大寺大勸進ノ聖俊乗房  
重源上人當國細頸郷ニ遊行ノ時四町四面ノ  
地ニ伽藍ヲ開創アリ号ノ不断念佛院ト名ク  
其後伊勢國司北畠石津平生ノ両邑ニテ寺領  
二百石寄附シ玉フ年月未詳称光院御宇正長



年中兵火ノ災アリテ一山悉ク焼失シ寺中ノ  
徒衆茫然トシテ離却ス其地忽灰土トナリテ  
百有餘歳カ間ソノ廢跡ヲ與スル者ナシ  
粵ニ三州ノ大樹寺ノ二世勢運社敬譽上人松  
颯和尚ハ智道兼備ノ英傑ナリ時ハ後奈良院  
御宇享祿元年戊子當國細頸郷ニ來リ彼靈場  
ノ郊原タルヲ看テ咨嗟愁傷ノ餘リ至誠内ニ  
催シ精舎宮建ノ情厚ク茅茨ヲ剪テ假ニ庵ヲ  
結ヒ跡ヲ爰ニトメ普ク淨施ヲ募リ徒衆三十  
四輩ヲ卒メ廣ク頭陀ヲ行シ終ニ伽藍ヲ再建  
アル故ニ緇素皆感歎ノ開山上人ト仰キ其達  
德ヲ慕テ樹敬和尚ト称スコレヲ以師ノ功名

直ニ寺号ト成ルノ謂ナリ本堂ニ安置シ奉ル  
灵像ハ坐身三尺ノ阿弥陀佛脇侍觀音勢至ノ  
二菩薩各立像長三尺ナリ其來歴テ記スルニ  
聖武皇帝ノ勅詔ニ因テ行基菩薩ノ此ニ尊ヲ  
彫刻シ當國垣鼻村ニ梵宇ヲ建立アリ宝延寺  
ト号ノ本尊トナシ宝祚延長國家安全ノ法要  
ヲ置玉フ然ルニ星霜稍移リ彼寺將ニ荒蕪セ  
ントスソノトキ樹教寺二世昇譽天機和尚相  
州鎌倉ヨリ來テ跡ヲ敬譽上人ニ嗣キ偶彼靈  
像ヲ瞻礼シ随喜ノ悲歎ニ夕ヘズ冀ハ此ニ尊  
ヲ摸シ奉リ國家安穩ノ法ヲ修メ廣度衆生ノ  
本意ヲ起通セントイヘ凡仏意容易ニ測リ難



三佛神ニ祈誓ニ檀前ニ跪居シテ三度闍ヲ拈  
スルニ果ノ願念ニ應ス師歡喜踊躍ニテ速ニ  
遷座ナシ奉リ終ニ大殿ニ安奉メ本尊トナセ  
リ右ニ宝延寺ヲ改テ院号トナシ廣ク清衆ヲ  
集メ一夏九旬法幢ヲ樹起メ大小法輪ヲ轉ス  
故ニ法幢山ト号ス當寺第四世法譽逸風師ハ  
正親町院御宇元龜元年庚午近辺淨土宗僧録  
ノ職タルヘキ昔本山知恩院保譽上人ノ許命  
アリ時ノ守護添翰ヲ賜ハルモノ也以來觸頭  
ノ職是ナリ右添翰ヲ給ハルモ燒失ニ當寺第  
十世莫譽良阿此トキハ後陽成院御宇天正十  
六年戊子松ヶ島城ヲ四五百森ニ遷メ神社仏

閣並市中ノ人家往々ニ構圍セリ當寺今ノ境  
内ヲ賜リ佛殿僧藍並塔中房舎二十四宇現存  
ノ八院アリ文祿元壬辰年移轉ノ功ヲ成就ス  
同十一世岌譽露牛ノ時古田兵部少輔崇敬ア  
リテ慶長三戊戌年六月七日境内殺生禁制ノ  
免許並外矢河畠一ヶ処寄セラル同第十三世  
上譽大通 東照神君御在世ノ時 台命ヲ以  
紫衣ノ沙門ニ住セラレ其後筑後国善導寺ニ  
移轉ス同十四世頂譽隨吟コノ時ハ 神君薨  
御ノ時古田大膳大夫言上アリ尊牌ヲ拜受シ  
則牌面ハ増上寺觀智國師ノ筆跡ナリ當寺ニ  
安置シ玉ヒ御中陰追福等懇懃ニ修行アリ其



後御供料トシテ毎年俵子ヲ賜ハリ又殺生禁  
断ノ黑印賜フ 紀州國君南竜院殿御入國ノ  
時此由御聞ニ達シ内矢河ニテ畠一ヶ処拜附  
又境内殺生禁断前規ノ如ク相違ナキ旨元和  
八年壬戌八月十七日仰ヲ蒙リ同十六世乘譽  
魯的此時 國君南竜院殿御聞ニ達シ 台能  
院殿崇源院殿西尊牌ヲ當山ニ安置シ奉リ御  
茶湯料トシテ黨陰屋敷拜領同二十六世隨譽  
觀亮ノ時知恩院前門主尊統法親王樹敬寺号  
ノ堅額御捺筆並菊葵御紋御免ヲ蒙リ同二十  
七世當住喚譽應愚享保六年辛丑中将姫ノ真  
作聖觀音ノ靈像一体寺内ニ安置享保八年癸

卯境内殺生禁断ノ制札並御證文頂戴畢

享保十年己七月 樹敬寺廿七世喚譽誌

塔頭 嶺松院 歡喜院 阿似院 法樹院

淨安院 應祢院 深信院 林照院

縁起云黨陰屋敷拜領ト云ハ今紀州領主ヨリ

四反九畝免許地アリ

真臺寺 大工町ニアリ 高田宗一身田專修寺

未ナリ 元和三丁巳年意賢法師開基 宝永元

年慈曉院理門本堂建立享保元年火災ニ罹リ

テ失ス

佛光山永昌寺 西町ニアリ 禪宗同府養泉寺

未ナリ 元文三年慶才首座開基境内ニ大日堂



子リ貞享四年建立當寺本尊ハ西町淺香某寄  
附ス方俗聽竹庵ト称セリ

大信寺 同処ニアリ 高田宗一身田專修寺ノ

末ナリ文祿二癸巳年善西法師一志郡田村ヨ  
リ移ス元文元年火ニ罹リ今ノ地ニ移ス

雨龍森牛頭天王祠 親規町ニアリ 社傳曰祭

神素盞烏尊ハ金徳ノ神ニメ秋ヲ司リ玉フ故

ニ金能水ヲ生スルニ拠テ雨竜ノ森ト称ス旱

魃ノ年祈雨ニ靈驗アリ穀苗ハ水ニ拠テ生長

シ穀穂ハ秋氣ヲ得テ實ル五穀成就ノ神靈旧

里生土ノ社トメ奉祭ノ年代久遠ニシテ未詳

享保八年十一月八日從二位卜部兼敬宗源

宣旨ヲ以奉授正一位祝詞奉幣帛ヲ内陣ニ納

了然ルニ明和九年甲辰三月正一位卜唱ルヲ

從紀府停ラル金字ノ豎額ヲモ内陣ニ収メシ

ナリ或説曰雨竜ノ二字瓜生ナルヘシ 神主

木下孫之進二代孫兵衛三代孫大夫四代治大

夫五代對馬清定寛文七丁未年三月廿八日卜

部兼連烏帽子狩衣裁許ナリ六代但馬清重貞

享元甲子年十月十八日卜部兼敬裁許八代筑

後規次寛延二巳年二月廿一日卜部兼雄裁許

旧卜木下氏出雲守代ヨリ笠因卜革夕リ飯

高君諸高カ後裔ト称ス故ニ飯高笠因ノ名ニ

拠テ此称ヲ罵ナルヘシ笠因ノ事實ハ續日本



紀ニ載タリ 神主ノ宅地ハ古田家ノ藩士竹  
中次右衛門ノ居地ナリ次右衛門夫妻子  
氏ニ同疾ニテ死亡シ其家断滅ス旧葺ノ地ト  
ナレリ故ニ方俗崇屋敷ト称ス然ルニ神主居  
住スヘキヲ乞願フニ拠テ寛永十三年六月郡  
宰長野氏九郎左衛門許免アリテ延宝五年八  
月神主旧居西町ヨリ此处ニ移シリ或曰此森  
ハ往昔ハ矢川村ノ入口ニアリシヲコトニ移  
セルヨリ旱魃ノ時今ニ矢川ノ屠兒等此神社  
ノ地ニ來リ雩スト謂フモ此故ナリ今誓フル  
ニ雨竜森ト称スル社傳ニ拠シハ素盞烏尊ヲ  
奉祀ノ方俗午頭天王ト崇ノ毎歳六月十四日

尾州熱田神社ト同ク祭奠ス今ノ習風ナリ故  
ニ社傳ニ金徳ノ神ニメ金水相生ノ微意ヲ含  
テ旱魃ヲ祈ル故ニ雨竜ノ名ヲ冒スニ拠レリ  
然レ氏或云神代卷雨竜神或罔象女ト填テク  
ラオガミト訓ス水徳ノ神トス往昔此神ヲ祀  
リ此二字ヲ割テ雨竜ト轉シタルナルヘシ旱  
魃ヲ祈ルニ拠テ水徳ノ神ト指ス片ハ雨竜神  
ナルヘシ

清長院 新座町ニアリ 修驗者當府ノ第一世

文慶二世文鑑三空院宮汎真言修驗ナリ紀州  
和哥山多門院般若院法式支配祈禱堂ニ書面  
金剛童子ヲ安セリ宝永七年三月十二日撰津



州四天王寺庚申ノ免許ヲ蒙リ庚申堂ト称ス  
享保二十卯年四月同郡松崎浦大善院伊勢寺  
村松樹院二組ノ魁首ヲ讓ル

浅間権現祠 瓦町ニアリ 社傳云祭神木華開

耶姬命國常立尊大山祇命ナリ松坂領中富士

登山ノ先達立花某駿州富士大宮司能登守親

時卜謀テ慶長十八癸丑年ヨリ大宮浅間権現

ヲ此処ニ勧請ス先達立花清七元祖ニノ第四

世丹後富久延宝七己未年吉田家ノ裁許ヲ蒙

リ宝永三戌年社地再建ス第六世立花近江富

次享保九甲辰年卜部兼敬裁許

常教寺 同処ニアリ 高田宗一身田專修寺末

淨閑法師開基寛文十一年同郡馭部田ヨリ蓮

乘院文翁此地ニ移ス元禄十三年境内ニ觀音

堂再建ス第六世無定延享元年高祖親鸞上人

自彫ノ木像ヲ安置ス

橋前寺 河原町ニアリ 天台律宗同府來迎寺

末寛永十六年真玉法師開基本尊藥師佛 方

俗河原藥師ト称ス元禄五壬申年岩嶺法師本

堂建立ス

寺院通計三十三寺 塔頭十九院

内八ヶ寺 禪宗 七ヶ寺淨土宗

五ヶ寺 真言 三ヶ寺天台律宗

一ヶ寺 高田宗 一ヶ寺日蓮宗



習俗

祇園會 每歲六月十四日 弥勒院午頭天王祠  
ハ同七日ヨリ十四日ニイタリ 神輿ヲ拜殿ニ  
遷シ巫女祠部等夜神樂ヲ奏シ諸人群ヲナス  
又雨竜天天祠ハ方俗御厨ト称ス獅子頭ヲ被  
リテ大神樂ヲ修ス宝永五年ヨリ雨竜御厨及  
西ノ庄三社ハ恒例ヨリ猶新ニ潤饅メ神祭ヲ  
嚴ニセリ方民ハ生土神ノ祭ト称メ家屬親疎  
ヲ集メ麩ヲ食シ饗ス例トナリ  
初午會 每歲二月上旬初午日ハ岡寺山繼松  
寺觀音會式ニテ近郷ノ諸人群聚ス商賈ハ土  
産ヲ畜積テ市鄽ヲ饒リ交賈メ豪富ハ遠途ノ

親睦尋訊ノ其饗ニ富リ二十五歳四十五歳ノ  
厄年ト称スル男女ハ鏡餅ヲ製メ兼日ヨリ觀  
音ニ供ス民家ノ繁ナル諸客ノ絡紘此日ノ榮  
ヲ尽セリ  
山神祭 每歲十一月六日夜ヨリ七日ニ至リ  
坊間民家ニ壇ヲ築キ山祇ヲ祀ル処二十所ニ  
及ヘリ又諸社ノ境内ニモ別ニ檀ヲ設テ鳥居  
ヲ建テ祭祀スル処若干アリ坊間當番ヲ定メ  
神祠ヲ屋中ニ勸請メ假ニ座ヲ設テ六日夜見  
童群聚シ山菓及海鰕餅等ヲ供メ七日ニ至リ  
テ散在メ其祭ヲ解ク是本州南伊勢ト称ス村  
落民ノ習風ナリ祭神ハ大山祇命或ハ伊勢津



彦神或猿田彦大神トス 今詳ニスルニ本州ノ習俗市廓及村落等ニ大樹下或ハ道傍ニ石壇ヲ築キ瑞籬ヲ設ケ又神社ノ傍ニ石ヲ樹テ山神ト標シ祭祀スル処若干ナリ毎歳十一月七日ニ薪火ヲ燃シ供物ヲ奠シ兒童ノ聚會メ其事ヲ掌ルハ恒例ナリ其所祭ノ神ハ山祇命ノミニ非ルヘシ度會郡宇治ニ山神社アリ又外宮域内土宮ノ東ニ山祇神社アリ是ニ倂テ山神ヲ祀ルハ常ナリトイヘトモ山澗ノ民ハ樵伐ノ為ニ其地ヲ侵スカ故ニ祭祀スルモ然ナリ村落及市廓坊間ハ山神ヲ祀ルヘキ謂ナシコト所謂猿田彦神ニメ道祖神或ハ幸神ト

稱スルヲ以テ道衢ニ祀ル処ナリ京洛及大和州ニ道傍ニ地藏尊ノ石像ヲ各所置ノコトシ浮圖釈徒ニ倂テ六道能化ノ謂ヲ以テ道衢ニ所置ナリ故ニ伊勢山神大和地藏ト俗諺ニモ所稱ニメ本州ノ山神ニ名ヲ誇ルト他州ニ暨テ口稱スルニ及ヘリ或ハ伊勢津彦命トスモ和銅風土記ニ拠レハ本州ノ所知ノ神ニシテ其謂ナキニ非ス然レモ道衢ノ神ヲ祀レリトシテ猿田彦神トスルハ的ナルヘシ其地方ニ拠テ大山祇命ヲ祀ルトスルモ足レリ一槩ニ俗稱メ山ノ神ト稱スルハ其習風ニ拠ルナルシニ世俗ノ諠ニ千代ノ松坂コヘ夕ト諷フ



此地ノ事ヲ謂フトハ非ナリ 今替フルニ  
平家物語云加茂川をさつと折流り粟田口ま  
川坂へもかゝりト云云又曰吉社行幸記云  
元徳二年三月京都の貴賤三条河原粟田口辺  
ニイタルマテ車找敷ヲカマヘ松坂檜ノ園ヲ  
越テ五位ノ墓四ノ宮川原ニナリ又レハト載  
ス又室町殿御参宮私記曰應永三十一年十二  
月十四日

我も又り都入日新しむるあはれ此山  
松坂ニモツキ又年々ノ御参宮ニ殊更此処ニ  
モ千歳ノ松ノ名ヲアラハシテ度毎ノ祝詞ニ  
アヒタルモ神慮ノ然ラシムル処ナリ

又鴨長明家集曰  
かえりえほをきく松坂といく十くへり、越くんへに

山城州粟田口ヨリ日ノ岡嶺ニ登ル間ノ坂段  
ヲ松坂ト称セリ京洛及浪華其餘他州ニ諷ス  
ル処モ此地ノ往昔京師ニ入ルノ祝辞ヲ歌フ  
処ナリ本州ノ松坂ノ名称ハ稍ク天正十六年  
蒲生飛弾守氏郷四五百森ニ細頸城ヲ遷シテ  
城府ヲ闢タルヨリ後ノ名ナル由ハ松坂雜集  
ニ載ルカコトニ然レハ上件ノ壽永元徳應永  
中等ノ典拠スル処ニ非レハ此諷謡ハコノ地  
ニ称ニ非ルヲ必トスヘシ猶天正中ニ松坂



一 稱ス本拠アリト云ハ凡續太平記第二十四  
山名細川合戦御所警衛條云應仁元年五月廿  
四日明シハ二十五日送ニ敵味方手段ヲ定テ  
東西ノ兩陣ニ合戦ヲハシム先細川方ニハ兼  
テ配立成シカハ將軍ノ御所ヲ中ニ構ヘテ一  
條ヨリ上東西ノ横路毎ニ手組ノ兵共ヲ一勢  
ク差向テ山名カ陣ヲ攻サセケル其一方ニ  
ハ武田大膳大夫國信ヲ大將トシテ某師寺与  
一公成秋庭備中守ヲ裨將トシテ熊谷吉川小  
早川池田伊丹奈良長山其勢都合ニ方余騎實  
相院御倉ノ正実坊ヲ後ニ當テ大手ノ口ノ南  
北舟橋表ニノ向ヒケリ一方ニハ細川下野守

ヲ大將トシ赤松伊豆守内藤備後守裨將トノ  
其勢一万余騎舟橋ヨリ下ニ向フ一手ハ三宅  
吹田星野岡崎川谷田原大島西郷飯高長野貞  
辨神戸九鬼鳥羽関田丸松坂河上服部名張ヲ  
始トメ國々ノ倚合勢三千余騎武者小路ヲ引  
渡シテ付堀ニ打散テソ備ヘケル云云 今案  
スルニ三河伊勢伊賀ノ地名ナレハ此松坂ノ  
名既ニ應仁年中ニ稱スルニ似タリ然レハ天  
正十六年ニ始テ名ノ起ル処ニ非スト謂ヘシ  
然レトモ田丸ノ名モ旧ト玉丸ニシテ天正中  
ヨリ今ノ田丸ノ稱アリ是ニ劬フ片ハ軍記野  
史ノ所標トイヘ凡各後人撰述スル所ニシテ



徴トスルニ足サル多シ猶誓フヘシ細川右京  
大夫勝元山名入道宗全應仁乱ノ條ナリ

西岸江 矢川ノ巽位ニアリ正税四百九十四石

六斗九升新田四十六石ニ斗五升九合紀州松

坂領ナリ 神鳳抄云内宮岸江御厨三石六九

十二月又岸江御厨廿丁一石

東岸江 西岸江ノ巽位ニアリ正税六百四十三

石今六百四十二石九斗三升三合新田十四石

一斗五合紀州松坂領ナリ外沢新田二百十一

石四斗八升五合

下樋小河 同処ニアリ水源ハ本郡山室ノ谿

間ヨリ流テ久保駅部田ノ中間ヲ東行ノ徳和

ニ至リ方俗ビンボ川ト称ス常ニ流水少ノ洪

水ニハ必溢流セリ故ニ名ク下流東岸江ニイ

タリ下樋小川ト称ス高所屋ノ巽位ニメ東海

ニ入ル 或曰下樋小川ハ本郡下村ノ意悲神

社ノ域ヨリ流ル細流ヲ指シテ下村ハ旧名下

樋村ノ畧ナリト所謂ハ名非ナリ其地境ヲ檢

スルニ頗ル遠キニ非ストイハ下村ノ方位

ハ古昔ノ官道ニ非スソノ方位ヲ異ナリトス

故ニ非トスヘ之後号ニ詳ニセリ 倭姫世記

曰活目入彦五十狹茅天皇二十二年癸丑冬十

二月廿八日迂飯野高宮奉齋四箇年于時飯高

縣造祖乙加豆知命汝國名何問給白飯高國止



白而進神田並神戶倭姬命意須比飯高志止白  
事貴止悅給支次佐縣造祖弥志呂宿祢命尔汝  
國名何問給白久許母理國志多備國真久佐乎  
毛佐向國止荅白冬進神田神戶亦大若子命乎  
汝國名何問給白久百張蘇我國千々五百枝刺  
竹田國白支其所尔御櫛落給支其所乎櫛田止  
号給櫛田社乎定給支中畧亦乙若子命麻被葛  
靈等以進倭姬命而令被解及陪從之人尔留弓  
釵兵共入座飯野高丘山宮遂得向五十鈴宮自  
尔以来天皇乃太子齋宮如及馭使國司人等到  
此等川為解除止鈴聲之其儀也 神名秘書曰  
倭姬命白飯野下樋小橋除乃乙若子命以麻神

葛靈等進倭姬命而令被解乃陪從人留弓釵兵  
齋內親王及馭家使國司等到此處止鈴聲為解  
除此其儀也 延喜大神式曰凡馭使入大神宮  
堺者到于飯高郡下樋小川止鈴聲 江家次第  
公卿勅使條曰伊勢祇養於下見橋退去多氣河  
被下樋小河或云停鈴聲 內宮儀式帳曰伊勢  
國飯高下樋小河此祢神之遠堺飯野郡多氣河  
祢神之近堺 神宮雜例集曰伊勢國飯高下樋  
小河此祢神之遠堺常入叅大神宮馭使口塞飯  
野郡礮部河祢神之近堺 勅使部類曰養久二  
年正月廿七日公卿勅使發遣云云自下見橋國  
之祇養歸 延喜齋宮式曰六處堺河供奉御禊



山城近江勢田河甲賀河伊勢鈴鹿河下樋小河  
多氣河 元長參詣記曰倭姫皇女下樋小河ノ  
橋ニテ御解除有之由ニテ彼橋ヲ再拜橋ト云  
伊勢國哥枕ニ幸ノ橋ト讀スル再拜幸和義了  
リト云云  
神祇百首  
度會元長

喜下下樋小川の橋（引）（引）  
名所圖會ニ橋朽テニ作ル古屋双紙引（引）（引）  
ハ記ニ作ル名非ナリ 今詳ニスルニ倭姫命  
世記ノ謂処ト神名秘書所載ハ畧相同シ倭姫  
命遷幸時ノ流例ニ從ヒテ後世ニ至リ延喜式  
及江表第神宮雜例勅使部類等雷同ノ齋王ノ

禊除及馭使等ノ馭馬ノ鈴ヲ停ム処ナリ  
其旧址ト所謂ハ下樋小河ハ倭姫世紀所載ト  
許母理國志多備国今ノ下村ニメ下樋村ノ畧  
則下樋小河ハ意悲神社ノ域ヨリイヅル小流  
トシ又元長參詣記ニ扱シハ下樋小河ノ橋ヲ  
再拜橋ト名ク伊勢哥枕ノ幸橋ト同儀ナリト  
ノ多氣河ヲ下樋小河トスルカコトシ又神名  
秘書云飯野下樋小橋トス延喜式儀式帳雜例  
集等ハ飯高ニ作ル神名秘書飯野ニ係ルハ行  
忠神主ノ誤写ニメ其餘名飯高ニ作ル片ハ飯  
野ハ非ナリナリ必セリ飯高郡ニ係ルトスル片  
ハ今ノ松坂府ノ東南徳和村ノ巽ニ街道ニ小



坂アリ方俗徳和坂ト称ス土橋アリコノ小流  
ヲ貧乏河ト俗称ス前ニ記スコトシ此上橋ヨ  
リ二十町東ニ下流ニ真盛橋ト称シ又真盛川  
ト名ク是下樋小河ニシテ其橋ヲ下樋橋及下  
見橋ト称スルナリ即此街道ハ古昔一志駅ヨ  
リ飯高驛郷津岸江朝田立利清水ト次第メ齋  
宮ニイタルノ官道ナリ然レハ此橋ヨリ岸江  
ニ至ル東ニ鈴止森ト称スアリ一株ノ老松ア  
リ是駅使ノ停鈴声ノ謂ナリ孰レ神三郡飯野  
飯高多氣度會ノ郡堺ニ各堺河アリ此地飯高  
多氣ノ郡堺ニアリ斎宮式所載ノ六処ノ堺河  
ニシテコノ河ヲ下樋小川ト決スヘキハ証ヘ

カ  
カ  
カ

大津 東岸江ノ西ニアリ正統千二百五十四石  
今千二百五十一石新田四石一斗三升紀州松  
坂領ナリ属邑杉本邑ノ坤位ニアリ  
田原 大津ノ坤位ニアリ正統百十七石今百二  
十三石新田七石四升四合紀州松坂領ナリ神  
鳳抄云手原御園或云手田ニ通ス  
垣鼻 田原ノ西ニアリ正統六百六十二石今七  
百九十七石二斗一升新田十八石八斗六升七  
合垣鼻ノ名称ハ松坂府駅ノ所置ノ後ノ名ニ  
シテ駅家ノ垣牆ノ頭ト云義ナルヘシ往昔ハ  
神戸郷ニメ垣鼻ノ名ハ後ニ名ク処ナリ



德和 属邑十リ其南ニアリ

信乐寺 ギヨウ 同处ニアリ 背書國誌曰聖武帝天平

宝字三年行基ニ勅メ大神宮へ奉獻ノ仏舍利

此寺ニ納ムトハ續日本記神宮雜事記ニモ見

タリ旧ハ神戸郷德和村ニ法延寺アリ此ニ納

ム処ナリ兵火ニ焼亡メ寺廢ス後土中ヨリ堀

出ス後ニ此寺ヲ創立メ此ニ納ムト云ヘリ

今詮スルニ古屋双紙引神宮雜記云天平十四

辛巳年九月南都大佛殿就建立為窺神慮伊勢

大神宮以行基奉納佛舍利三本杉本参篁七日

満夜有神託實相真如日輪者照脚生死之長夜

本有成就月輪者礫破煩惱之迷雲我難得為得

賜宣藏神戶郷行基歸京後建一宇法延寺ト号

ス聖武皇帝不疑止給井手左大臣橘諸兄公重

伊勢大神宮被遣勅使其故天皇御願寺可被建

立之由依宣旨被祈申也十一月十二日夜令示

現賜天皇御前玉女座即放金色光曰本朝者神

國也可奉欽仰神明也日輪者大日如來也本師

毘盧舍那佛也衆生者悟之夢覺天平神護三十

二月日次祭使差副以逢鹿瀬寺永可為大神宮

寺之由被祈申皇大神畢宣命状具也 又云弘

仁天皇室龜六乙卯六月二所大神宮御膳料漁

進依有例役各隨身細釣等行臨大鹿瀬川為漁

寺法師三人竝別當安泰之童子二人等出来且



打穢取所御贄且隨礫神民等仍同七年二月三日訥神祇官依公家奏問則左大臣奉宣永可停止神宮寺飯高寺飯高可破越宣旨已畢官使小槻宿祢ト載夕リ大鹿瀬寺ハ古屋双紙石津村ノ糸ニ載夕リ井沢長秀所著ノ俗説并云聖武天皇行基ニ勅ノ佛舍利一粒ヲ授ケ勢州ニ遣シ大神宮ニ獻セシメラル行基南門ノ大杉ノ下ニ廬ヲ結ヒテ居持念ノ上旨ヲ告一七日ヲ期ス七夜ニ當レルニ神殿自開ケ唱テ宣ク實相真如ノ日輪照却生死之長夜本有常住之月輪燦破煩惱之迷雲我今逢難遭大願如渡得船又受難得宝珠如暗得炬師カモテル舍利ヲ

飯高郷ニオサメ埋テ邦家ニ頼セヨト行基舍利ヲ彼処ニ收メ都ニ歸テ此ヲ奏ス帝大ニ悦玉ナカウ行基ヲ廟使トスルヲ朝義ニ不合トテ橘諸兄ニ勅メ勢州ニ詣シメラル諸兄ニハ神勅モトシ歸洛ノ夜帝御夢ニ皇大神告テ曰日輪是昆廬遮那ナリトテ日輪相ヲアラハシ其光輝ケリ云云今按スルニ本草綱目舍利ハ精氣ノ疑結セルモノニテ甚穢ハシ神事ニハ深ク穢惡ヲ惡メリ鎮座傳記云不觸諸穢惡事不云佛法言屏佛法息又鎮座本記云不觸諸穢惡事不得佛法宝基本記云不預穢惡不失其正目不見不淨神祇本源云神人守混泚之始



屏佛法之息神祇令義解云謂穢惡者不淨之物  
鬼神之所惡也禁秘抄云不預穢惡佛事トア  
リ昌黎韓愈カ佛骨表ニ枯朽之骨凶穢之餘豈  
令入宮禁ト謂ヘリ況ヤ神宮ヲヤ其謬明ケシ  
又大神宮神託ハ浮屠氏ノ妄作ナリ度會延佳  
云行基ヲ勅使ニテ伊勢大神宮ニ祈玉ヒシニ  
神殿ノ御戸開テ大神勅アリシト歸京シテ  
奏聞セシヲ聖武イカ、思召ケン天平十四年  
十一月三日橘諸兄公ヲ勅使トシ重テ大神宮  
ニ遣サレ諸兄ニハ何ノ神勅モ夢モナシト  
怪ニ行基ノ奏聞セシ神勅ハイフカシ陽復頭  
書云行基事出于形文深叙コ、書ハ浮屠ノ所

作ナリ、続日本紀云天平十年五月辛卯使右大  
臣正三位橘宿禰諸兄神祇伯從四位下中臣朝  
臣名代右大辨從五位下紀朝臣宇美陰陽頭外  
從五位下高麥太資神室奉子伊勢大神宮又大  
神宮例文云伊勢公卿勅使聖武天皇天平十年  
五月辛卯勅使右大臣正三位橘宿禰諸兄中臣  
神祇伯名代民部卿閔磨又伊勢勅使部類云公  
卿勅使雜例聖武天皇一度宣命趣遣唐使平安  
事大神宮例文ニ拠ルニ聖武天皇ヨリ持統院  
ニイタリ勅使百三十度トアレ凡右ノ神託ノ  
事ハ不見聖武御夢ノ事ハ山崎垂加大倭小学  
云大カク夢ハ思ノ顯ハルモノ故正ニキ人ニ



雜夢十之殷ノ高宗ハ夢ニ傳説ヲ得テ成湯ノ  
政ニカヘシ玉ヒ漢明帝ハ佛ヲ夢ミテ中國ニ  
ムカヘ入レ神國マテ毒ヲ流セリ先王宗廟ノ  
礼廢シケルモ明帝ノ私ニ拠テナリ聖武帝モ  
甚佛ニ迷玉ヘハ御夢ハ其思ノ惑ニテ事ノ實  
ニハ非ヲ知ヘシ是等ヲ考ヘテ俗説ヲ曉スヘ  
シ今續日本紀ニ拠ルニ第九聖武天皇神龜  
元年ヨリ次第ノ卷十天平二年閏六月甲午制  
奉幣伊勢大神宮若下食五位已上充使不須大  
位已下又云卷十二天平九年夏四月乙巳遣使  
於伊勢神宮大神社筑紫社住吉八幡二社及香  
權宮奉幣以告新羅无礼之状又第十三天平十

二年九月遣治部卿從四位上三原王等奉幣于  
伊勢大神宮同十一月丙戌遣少納言從五位下  
大井王并中臣忌部等奉幣於大神宮又第十四  
天平十三年遣使於伊勢大神宮及七道諸奉幣  
以言迁新京之状也又第十六天平十七年六月  
庚寅遣左衛士督從四位下佐伯宿祢淨磨奉幣  
于伊勢神宮卷十八孝謙天皇天平勝宝二年リ  
前文天平十年五月諸兄名代ノ外国史ニ所載  
十三然ルニ僧正行基ヲメ奉勅ノ使夕リシ  
ハ妄誕ナリ本文ノ舍利ヲ飯高郷ニ收ムト傳  
フニ拠テ今ノ信乐寺ノ地トシ或ハ同郡丹生  
人不輕塚ノ地トスノ妄傳アリ又前ニ古屋草



一 帝所引ノ神宮雜記ニ宝龜六年奉宣永可停止  
神宮寺飯高寺ノ文ニ拠シハ飯高郡ノ内ニ飯  
高寺アリ多氣郡ノ逢鹿瀬寺ヲ神宮寺トス由  
ニノ其逢鹿瀬寺飯高寺モ今ソノ地ヲ詳ニス  
ルヲ得ス况神戶郷ニ法延寺ヲ建其旧址ハ  
今ノ信樂寺ノ地ニ誣ルトイヘ凡又其證ヲ得  
スイツシ仏氏ノ妄言ニシテ真トシカタシ  
大黒田 松坂府城ノ西ニアリ正税千六百二石  
今千三百九石七斗八升五合新田六十一石八  
斗四升九合紀州松坂領ナリ黒田新田 林小  
人町 黒田町等ノ属アリ 北畠家臣中津下  
総守居城ス真善院名録ニ載タリ

天王八王子祠 同処ニアリ高一石五斗紀州  
領主ヨリ免許アリ  
小黒田 大黒田ノ西ニアリ正税三百十石今三  
百七十八石八斗新田十四石六斗八升六合紀  
州松坂領ナリ 神鳳抄云南黒田御厨 今詳  
ニスルニ大黒田ハ旧名北黒田ニシテ本邑ハ  
西南ニアリ故南黒田ト旧称セシナルヘ之黒  
田ノ名義ハ畔ヲク口ト訓ス田畔ノ意ナリ  
牛頭天王祠 同処ニアリ高一石二斗紀州領  
主ヨリ免除アリ  
驛部田<sup>マイノハク</sup> 大黒田ノ坤位ニアリ正税七百十二石  
今七百四十八石三斗六升紀州松坂領也 驛部



田ノ名義ハ松坂駅ニ對シテ駅ノ傍ナル謂テ  
ルヘシ大部田下部田等ノコトシ海瀕ナルカ  
ユヘニ稱シ駅傍ナルニ扱テ部田ト稱ス方俗  
傍ヲ部田ト訛リテ稱ス馬屋ノ傍ナルコト明  
ラカナリ

山室 駅部田ノ西ニアリ正税千七百五十五石  
今九百六石六斗一升五合新田九石六斗三升  
八合紀州松坂領ナリ 菖蒲谷 竹林属邑ア  
リ松坂府城ノ西南ニ民居メ松林丘境ノ間ニ  
アリ故ニ山室ノ名アリ 神鳳抄云山室吉光  
七野 山室成武一町五段ノ神厨アリ  
午頭天王八王子祠 同処ニアリ紀州領主ヨ

リ高六石八斗三升免許アリ  
山室城址 同処ニアリ山室十郎左衛門尉住  
セリ

久保 山室ノ東ニアリ正税九百三十六石今九  
百三十三石八斗二升七合新田十石二斗五升  
三合紀州松坂領ナリ 皆付 新屋属邑アリ  
各本邑ノ東ニ居セリ

下村 久保ノ異位ニアリ松坂府ヨリ二十町餘  
異位ニアリ正税千四百二石今千四百五石三  
斗一升五合新田四斗三升二合紀州松坂領ナ  
リ旧名下樋村今略メ下村ト稱ス他邑ノ如ク  
上村中村等ノ相對スルノ名ナシ下樋ノ畧ナ



ルヲ明ナリ所謂下樋小河ハ源流此村ノ北ヲ  
流テ東岸江ニイタル前號ニ奉ルカコト之然  
レ凡意悲神社ノ社域ヨリ流ルヲ下樋小河  
トスルハ非ナリ屬邑四ツ俣本邑ノ東ニア  
リ一里塚四俣ナコトノ橋ヨリ六十三間四  
尺ニアリ松坂府ヨリ山田ニイタル街道ノ傍  
ニアリ

式内意悲神社 同処ニアリ往還ヨリ十丁許  
西ニ坐ス方俗神カウカク館大明神公牒ニ廣大明神高  
四石紀州領主ヨリ免許アリ立野村立野社  
ヨリ二里許神立ノ森トモ祢ス祭神弥志呂宿  
祢命、雜記云遷幸要畧曰垂仁天皇二十二年

癸丑冬十二月廿八日近飯野高宮奉齋四年于  
時造進飯高神戸則其白跡ハ當村ノ神社ト云  
云或云飯野郡山添村袖山ノ麓ニアル明神是  
ナニ高宮ニテ座ス神山神社ト云ヘリ飯野郡  
ノ内ナシハ左モ有ヘシト思ヘハ大倭姫世紀  
云二十三年癸丑冬十二月廿八日近飯野高宮  
奉齋四ヶ年于時飯高縣造祖乙加豆知命乎汝  
國名何問賜白久意須比飯高國止白而進神田  
並神戸倭姫命飯高志止白事貴止悦賜支シ力  
レハ飯高郡ノ神戸ニ有ヘキヲ決セリ郡堺郡  
名ハ時代ニヨリカハルヲアリトミヘタリ下  
樋小河ト云モ此処ナリ下樋村則此下村ヲ云



官ノ東ニ小河アリコレヲ下樋川ト云伊勢  
國旧蹟聞書曰下樋ヲ下見氏云ナリ飯高郡ノ  
中ニテ松坂ヨリ二十町許巽ノ方神戸郷ノ内  
ニ下村ト云ハ下樋村ナリ東ノ方ニ河アリ是  
下樋小河ナリ此処神戸六郷ト云モ弥志呂宿  
祢ノ進リタル神戸ノ地ナリ度會延經神名  
帳考證云意悲神社飯豐姫命意大也悲飯之餘  
音与樋音訓同在下村神館社此乎此東川下樋  
小河下流也大神宮式云飯高下樋小河此飯高  
神戸神館也度會正身神名帳再考證云意悲  
神社意ハ大也才ノ餘音ナリ悲ハ樋ナリ田ニ  
灌ク水ノ大樋ヲ守護之玉ヲ神ナリ所祀罔象

ナルベシ社地下樋小河ノ邊ニアルヘシ今  
詳ニスルニ延經考證意悲神社ノ名義ニ拠テ  
意ハ大ナリ悲ハ飯ノ餘音ニ樋ト訓相同シ  
今本郡下村ニ在ス神館ノ社ナルヘシ此社ヨ  
リ東ノ河ハ下樋小河ノ下流ナリ延喜大神式  
ニ飯高下樋ノ小河ト載ス然レハ此地飯高ノ  
神戸ノ神館ト云ナリ正身再考證上ニ同シ稻  
田ニ所灌澆ノ大樋ヲ守護ノ神ヲ祀ルカ故ニ  
祭神ハ罔象ナルヘシ社地ハ下樋小河ノ邊ニ  
在ヘシト云雜記本邑ヲ飯野ノ高宮ノ地トス  
ルハ非ナリ神戸ノ地トスルハ是ナリ今倭姫  
世紀ニ拠ルニ活目入彦五十狹弟天皇二十二



年癸丑冬十二月廿八日遷飯野高宮奉齋四ヶ  
年于時飯高縣造祖乙加豆知汝國名何問給白  
久意須比飯高因止白而進神田並神戸倭姫命  
飯高志止白事貴止悦給支次佐奈縣造祖弥志  
呂宿祢命尔汝國名何問給白久許母理國志多  
備國真久佐牟毛佐向國止荅白氏進神田神戸  
内宮延曆儀式帳真久佐牟氣草向國ニ作ル度  
會清在世紀注曰許母理國ハ万葉集ニ隱口ト  
云ヘルニ同シ下日ト謂ニ為ノ発語ナリコノ  
国ノ字ハ訓ヲ下畧ノ用ユルナリ志多備ハ下  
樋ナリ佐奈ハ今ノ佐奈村ナリ真久佐ハ州ト  
云ノニ万葉第一ニ真草苅<sup>ル</sup>荒野ハ雖有<sup>アレト</sup>ト云是

ナリ佐向國ハ松坂ノ巽射和村ノ北ニ草伏村  
アリ是ナリ内宮儀式帳ニ州向國ト載ス真ト  
スヘシ然レハ飯野高宮ニ奉齋ノ片佐奈縣造  
祖弥志呂宿祢命ノ神田神戸ヲ進タルハ許母  
理國志多備ノ名ニ拠リテコノ地ノ神戸トス  
ヘシ今ニ神戸六郷ト称スルニ徴セリ意悲ノ  
名義ハニ考證各意悲ハ大樋ノ訓ニシテ下樋  
小河ノ名ニ合ノ社号トス再考證ニ祭神大樋  
ヲ守護スニ拠テ罔象ト云ハ各從ヒカクシ意  
須比ヲ略メ意悲トスルヤ飯高ノ名ニ拠テ飯  
ヲ意悲トスルカ孰シ音近キニ拠レリ祭神ハ  
或ハ乙加豆知命ヲ祀ヒリ又前考證飯豊姫命



ヲ祀レリトス今詳ニスルニ乙加豆知ハ飯高  
造祖ニノ本郡ノ宰トスル神ナシハ然リトス  
ヘシ然レ氏今本郡作滝村作滝神社ニ祀レリ  
又飯豊姫ハ其意悲ト名クルニ扱テ飯ノ訛ニ  
扱リ牽合ス処ニ似タリ恐クハ弥志呂宿祢命  
其神田神戸ヲ進リテ千歳ノ後今ニ神封ノ名  
ノ遺失ナキニヨレハ此神ヲ祀レルヘシ是ニ  
從フヘシ即神名帳考證及竜熙近神名帳考正  
勢陽雜記拾遺及式社案内記等各下村神館明  
神ヲ意悲神社ニ充ツ領主ヨリ高四石免許ノ  
附田アリ故ニ此ニ必セリト定ムヘシ佐奈縣  
造祖ト云ニ扱テ俚諺ニ佐奈神社ニ奉祀ス処

トスバ古事紀ノ明文ニ扱テ他ヲ容ルニ不及  
処ナリ其神社ノ地ヲ伊勢名所圖會云垂仁天  
皇廿六年大神宮四年奉齋飯野高宮トスハ大  
ニ非ナリ又神戸ノ遺例ハ雜記云往昔此処ヘ  
藺ノ苗天降りリレヨリ神戸六郷ニ藺ヲ作り  
筵ニ打産業トナセリ最初ノ藺田今ニ神前ニ  
アリ大神宮祭礼毎ニコノ処ヨリ筵ヲ献スル  
古例アリ神戸六郷トハ久保カイツキ大津原  
杉上川下村馭部田垣鼻ナリ今替フルニ此近  
邑ニ藺筵ヲ織テ鬻ケリ神鳳抄云飯高郡神戸  
百九十三町三段御神酒三缶長筵廿四枚祭料  
並造酒米十八石三斗懸刀緋四十束端裏筵十



四枚長筵六枚年魚郡所當御神酒米一石筵六  
枚御鮎米廿七石一斗在糧料八石二斗云云祭  
料並造酒米十八石卜載又外宮神領記云當  
時差定候調進神戸六郷長床四折御座こか不  
御座あらは筵都合八枚其外入用之節申遺ス  
其餘神鳳抄ニ所載内宮薦御厨十五町一石同  
神戸内神領比郡田印井御厨五斗菌白加志御  
厨平田御園酒木御菌入江御菌富墓御菌堺御  
菌松尾御菌位田御菌上津原御菌神戸名田下  
牧三十六町守忠五町五段成忠二反武清三丁  
二反半永平一町大丸三丁七反同次男名一町  
得光廿町九反福富三町三反武恒七丁二反本

童子九十三町七反國園童子九十三町七反位  
田童子九五丁四反釈尊寺返田童子九童子九  
次男二町牟山神田一町三反吉安五反本福延  
二町一反福米一町五段五覺院一町八反安樂  
寺一町七反相可寺一反堀社三反久富一町延  
吉三十八反餘戸寺一町三反等ノ名藉アリ明  
中各神戸ノ名アリト雖凡神戸卜挙テ名目ヲ  
録スハ此郡ノミ然シハ所謂神戸六郷ニ散漫  
セル古昔ノ地ナリ今不詳トイヘ凡世紀ニ謂  
弥志呂宿祢命ノ奉進ス神田神戸ノ遺制ナリ  
今六郷卜称スルハ垣鼻徳和上川鎌田大津田  
原下村ナリ然シトモ羅記及俚諺ニ随ヒテ上



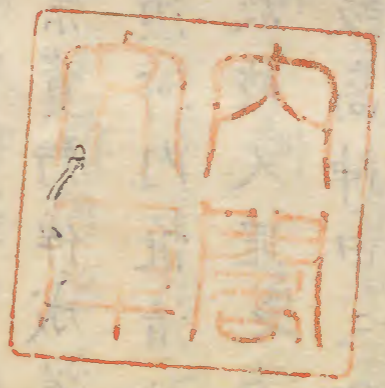
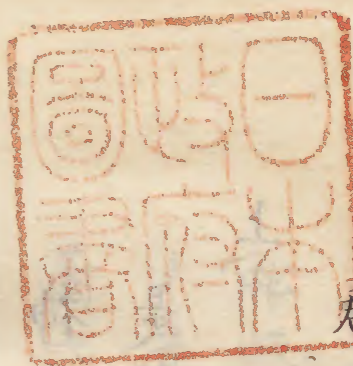
件ノ久保大津上川下村馭部田垣鼻ノ六邑ト  
スヘシ徳和田原ハ垣鼻反大津ニ属セリ又今  
松坂府城モ藩布馭相馭リテ都會ノ地トスソ  
ノ昔ハ神戸神厨ノ地ナルヘシ外宮四藺生御  
藺六斗四藺生ノ御厨等ノ名神戸ノ地今ノ四  
五百森ノ地ナルニ必セリ或云本社ノ意悲神  
社ト称スルモ意悲ノ反伊ニノ藺ノ訓ニ通ヘ  
リ故ニ藺席ヲ奉獻ノ例ヲ設タルニヤイツレ  
神田神戸ノ遺例ナリ方俗ノ天ヨリ降リタル  
藺ノ説ハ信シカタシ四藺生御藺及御厨ノ名  
神鳳抄多氣郡ニ隸シリ然レ他郡ニモ多ク  
此例アリ今古郡境ノ差異アルニ拠リ敢テ

誣ルアラス高神宮雜例集云康平三丁未六  
月去十二月西度飯高神戸御神酒關急事前大  
宮司義任被神戸檢田行之之由愁訴關急御酒  
云云依宜旨中原師範右史生惟宗資行伴成道  
等差使以同月七日義任与神戸預河内惟清被  
對問必惟清所為前後相違既成故彼人罪之重  
也仍被停止件惟清職掌也又云飯高神田三町  
神戸大宝二七月八日格云詔伊勢大神宮封物  
是神御物宜唯供神事勿濫穢

上川 下村ノ南ニアリ正稅千六百四十二石今  
千六百四十六石四斗三升新田十三石六斗三  
升七合紀州松坂領土リ属邑高田ナリ 飯野



本郡ノ界域ハ上川ノ北東ニ環リテ西ハ飯野  
郡ハ西南山下及伊賀所ノ間ニアリ



勢陽五鈴遺響飯高郡卷之十終

紙数九拾叁枚

93



